

ISL Conference Proxy

管理者ページ操作マニュアル



目次

1	管理者ページの設定	6
1.1	管理画面へアクセスする	6
1.2	管理者のパスワードを変更する	7
1.3	管理画面へのアクセスを許可する	8
1.4	サーバー（ISL Conference Proxy）を再起動する	9
1.5	ユーザー（ドメイン）を作成する	10
1.6	ユーザーの設定を保護する	14
1.7	使用するポートを制限する	15
1.8	メールサーバーを設定する	17
1.9	コードサイン証明書を有効（無効）にする	19
1.10	サーバー名・背景色を変更する	19
2	オンラインページの設定	20
2.1	ユーザーにドメイン管理者権限を与える	20
2.2	コンピューターグループの管理を禁止する	22
2.3	プロフィールの変更を禁止する	23
2.4	アクセスを禁止する	24
2.5	2段階認証を有効にする	25
2.6	セッションコードの「発行」を禁止する	27
2.7	セッションコードの「入力」を禁止する	28
2.8	製品の使用を禁止する	29
2.9	製品のダウンロードを禁止する	31
2.10	ログインセッションのタイムアウト時間を変更する	33
3	ISL AlwaysOn の設定	34
3.1	常駐接続端末を共有する	34
3.2	エージェントインストールできる端末の台数を制限する	38
3.3	端末に同時接続できるセッション数を制限する	39
3.4	プッシュアップグレード	40
3.5	OS のユーザーによる認証方式を許可する	42
3.6	代替接続の使用を許可する	43
3.7	パスワードで設定を保護する	44
3.8	アクションの使用を禁止する	45
3.9	ファイル共有を禁止する	46
3.10	右クリックメニューから共有フォルダーの設定を削除する	47
3.11	スリープモードを有効（許可）にする	49

3.12	利用中の RDP のセッションへの接続を禁止する	50
3.13	Client を利用する（接続オプション）	51
3.14	オンデマンドモードを有効にする	52
3.15	端末に接続できる時間を制限する	53
3.16	常駐接続のインストーラーをカスタマイズするページへのアクセスを制御する	54
4	ISL Light の設定	57
4.1	ファイル転送（送信・受信）を禁止する	57
4.2	ファイルマネージャーの使用を禁止する	58
4.3	デスクトップ共有（見る・見せる）を禁止する	59
4.4	コントロール（オペレーター・クライアント）を禁止する	60
4.5	クリップボードの使用を禁止する	61
4.6	ゲストオペレーターの招待を許可する	62
4.7	レコーディングを禁止する	63
4.8	各種プラグインの使用を制限する	64
4.9	代替接続（RDP 接続）利用時の操作を制限する	65
4.10	レコーディングファイルを自動保存する	66
4.11	不要なセッションを自動削除する	68
4.12	ロゴ画像を変更する	69
4.13	UI 上の項目を非表示にする	72
5	ISL Pronto の設定	74
5.1	オペレーターをグループに登録する	74
5.2	クライアントが入力中の文字を ISL Pronto に表示しない	75
5.3	オペレーターが入力中の文章を非表示にする	75
5.4	ステータスを自動的に「離席」にする	76
5.5	クライアントからのチャットを自動でオペレーターに割り当てる	77
5.6	ワンタイム接続時に毎回 ISL Light をインストールする	78
5.7	ISL Light のチャット内容を ISL Pronto に転送しない	78
5.8	定型文の編集を禁止する	79
5.9	ファイル転送（送信・受信）を禁止する	79
5.10	チャットの呼び出し元を制限する	80
5.11	チャット履歴の最大検索数を制限する	80
5.12	チャット履歴で検索できる範囲（日数）を制限する	81
5.13	チャット履歴検索でタイムアウトする時間を設定する	81
5.14	チャット画面の WEB サイトの埋め込み方・利用方法	82
5.15	チャット画面をカスタマイズする	84

5.16	チャット終了後にクライアント側に既定のサイトを表示する	85
5.17	チャット終了時にチャットの内容をメールアドレス宛に送る	86
5.18	チャット画面からオペレーター宛にメールを送れないようにする	87
5.19	メッセージを変更する	88
5.20	チャット タイマーの表示を制御する	89
6	セキュリティに関する設定	91
6.1	パスワードを変更する	91
6.2	パスワードに有効期限を設定する	93
6.3	パスワードの入力回数を制限する	94
6.4	次回ログイン時のパスワード変更を強制にする	95
6.5	「パスワードを忘れた場合」を非表示にする	95
6.6	2段階認証の設定を強制する	96
6.7	「このデバイスを登録する」を非表示にする	97
6.8	パスワードに条件を設定する	97
6.9	ファイルの拡張子の制限を変更する	100
6.10	アクティビティログを記録する	102
6.11	セッションコードの入力回数を制限する	103
7	セッション履歴に関する設定	104
7.1	現在利用中のセッションを確認する	104
7.2	セッションの利用履歴を確認する	110
7.3	オンラインページの履歴の設定を変更する	113
7.4	セッションの利用履歴を管理する	115
7.5	現在利用中のセッションをオンラインページに表示・終了できるようにする	119
8	その他	120
8.1	モニタリング	120
8.2	NTP サーバーの設定を変更する	122
8.3	ユーザー情報を CSV に出力する	123

本マニュアルについて

ISL Conference Proxy について

オンプレミスおよびプライベートクラウドライセンスでは、ISL Online 製品を自社サーバーで稼働するシステムを構築できます。（プライベートクラウドの場合は、サーバーを冗長構成で Amazon Web Services 上に展開しています。）システムの構築には、サーバーに ISL Conference Proxy をインストールする必要があります。

ISL Conference Proxy をインストールすると、インストールしたサーバーで管理者ページ（ISL Conference administration）にアクセスできるようになります。管理者ページは管理者がシステムの設定やユーザーの管理などを行います。

本マニュアルでは、管理者ページの操作方法および主な設定についてご案内しております。

ISL Conference Proxy のセットアップ（インストール）については、『ISL Conference Proxy 新規セットアップマニュアル』を、ISL Conference Proxy のバージョンアップおよび移行については『ISL Conference Proxy アップグレード&移行マニュアル』をご参照ください。

動作環境（サポート対象ブラウザ）

Internet Explorer、Microsoft Edge、Google Chrome、Mozilla Firefox、Safari

※ブラウザのサポートは、各社のサポートポリシーに準じます。

ISL Conference Proxy のシステム構成

本マニュアルは最新版の ISL Conference Proxy（バージョン 4.4.2335.124）に準拠してご案内しております。各製品の最新版のモジュール、プログラム、プラグインのバージョンは製品ページで公開しています。

※現在インストールされている製品のモジュール、プログラム、プラグインのバージョンは、ISL Conference Proxy 管理画面の [Manage software]-[Overview] で確認できます。

1 管理者ページの設定

1.1 管理画面へアクセスする

1. ISL Conference Proxy をインストールしたサーバー上でブラウザを起動し、以下の URL にアクセスします。

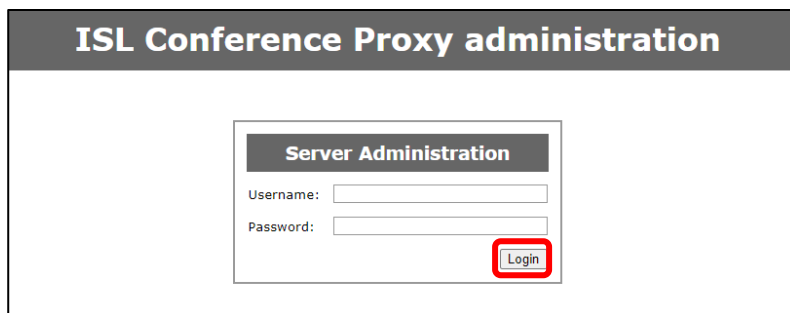
<http://localhost:7615/conf> (7615 部分は利用中のポート番号)

※[すべてのプログラム]-[ISL Conference Proxy]-[Web administration]を選択して起動することもできます。

※ISL Conference Proxy を新規インストールした場合は、インストーラー実行後にブラウザ上で管理画面が自動で開きます。

2. 管理者のユーザー名、パスワードを入力して[Login]を選択します。

※初期設定 (ユーザー名 : admin、パスワード : asd)



3. 管理画面が開きます。画面の左側にメニューの一覧が表示されます。



1.2 管理者のパスワードを変更する

管理画面にログインする管理者のパスワードを変更します。ユーザー名は変更できませんが、パスワードは変更することを推奨いたします。

※Windows OS で管理者のパスワードを忘れた場合は、ISL Conference Proxy をインストールしている端末で bat ファイルを実行することでパスワードを初期設定（ユーザー名：admin、パスワード：asd）に戻すことができます。bat ファイルは以下からダウンロードできる ZIP ファイルを解凍してご利用ください。

▼ISL 管理者パスワードリセットツール

https://www.islonline.jp/help/file/icp_reset_adminpwd.zip

※ Linux OS で管理者のパスワードを忘れた場合は、ISL Conference Proxy インストールフォルダー（/opt/confproxy）に、名称「reset_adminpwd」という拡張子なしのファイルを生成し、サービスを再起動します。サービス再起動は、以下コマンドで実施できます。

```
confproxycctl restart
```

メニュー

Configuration > Basic > Administrator password:

1. [Configuration]-[Basic]を選択します。
2. [Administrator password]エリア内の[Password:]および[Password again:]の欄に新しいパスワードを入力します。

Administrator password	
This password is used to login into the web administration. Please, set the password to a secure value.	
Password:	
Password again:	
Change	

3. [Change]を選択して設定を保存します。

1.3 管理画面へのアクセスを許可する

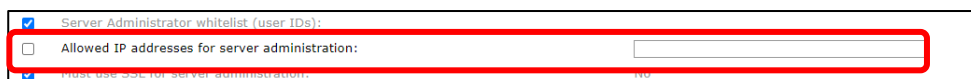
管理画面は、インストール直後は ISL Conference Proxy のインストールを行ったサーバー上でのみアクセスが許可されています。他の端末（IP アドレス）からも管理画面にアクセスできるようにする場合は、以下の手順に従ってください。

※必要に応じてポートの開放も忘れずに行ってください（1.7 使用するポートを制限する参照）。

メニュー

[Configuration](#) > [Security](#) > [Allowed IP addresses for server administration](#):

1. [Configuration]-[Security]を選択します。
2. [Allowed IP addresses for server administration:]のチェックを外し、管理画面へのアクセスを許可するコンピュータの IP アドレスを入力します



The screenshot shows a configuration interface with a table of settings. The second row, 'Allowed IP addresses for server administration:', is highlighted with a red rectangle. The checkbox for this setting is currently checked. Below the table, there is a 'Save' button.

3. 画面下の[Save]を選択して、設定を保存します。
4. 許可した端末上で管理画面（http://サーバーの IP アドレスまたは DNS 名:ポート番号/conf）にアクセスできるようになります。

※カンマで区切るにより複数の IP アドレスを指定できます。

※IP アドレスは範囲指定で記載できます。

例 1 : 192.168.0.0/24

例 2 : 192.168.0.0/255.255.255.0

例 3 : XXX.CCC.BBB.111 - XXX.CCC.BBB.122

1.4 サーバー (ISL Conference Proxy) を再起動する

サーバーを手動で再起動する場合は、以下の手順に従ってください。

メニュー

Activity monitor > Servers > Restart

1. [Activity monitor]-[Servers]を選択します。
2. 再起動するサーバーにチェックを入れます。
3. 続けて、[Restart]左横のチェックボックスにチェックを入れます。
4. [Restart]を選択すると、再起動を開始します。

Servers

☐ Select	Server ID	Address	Connected	Version
☒	1 (this server)		-	4.4.2210.45 2022-06-06 win64 db=dt+swal/r,d

☒ Restart ☐ Restart module apps ☐ Disconnect from GRID

※サーバーの再起動には数分程度かかる場合があります。

※実行中は「Current server status」に「restarting...」あるいは「unavailable」が表示されます。処理が完了するまで管理画面の操作は行わないでください。

ISL Conference Proxy restart

ISL Conference Proxy is restarting. It might take a while for ISL Conference Proxy to start again, especially if you have requested an upgrade.
Current server status: [restarting...](#)

5. 再起動が完了すると、「Current server status」に「available」が表示されます。[Please click here to go back to the session]を選択すると管理画面に戻ります。

ISL Conference Proxy restart

ISL Conference Proxy is restarting. It might take a while for ISL Conference Proxy to start again, especially if you have requested an upgrade.

Current server status: [available](#)

[Please click here to go back to the session](#)

1.5 ユーザー（ドメイン）を作成する

オンプレミスライセンスで ISL Online 製品をご利用いただくには、ユーザー（オペレーター）およびドメインを作成する必要があります。ユーザーおよびドメインに関する設定は、User management で行います。

※ISL Conference Proxy をインストールすると「admin」（管理者のアカウント）は自動で作成されます。

すべてのユーザーはドメインに属している必要がありますが、初期状態では「default」というドメインがあらかじめ用意されています。ドメインは独自に作成することもできるため、複数ドメインを作成し、それぞれに異なる設定を適用することもできます。独自に作成したドメイン（例：domain）にユーザーを作成した場合、ユーザー名は「¥¥domain¥username」という形式になります。

新規ユーザーの作成

User management > Create user

新規ユーザーを作成する際は、[Create user...]を選択します。ユーザー名やパスワードなどの設定を入力し、[Create]を選択します。

メール通知機能を使用しない場合は、E-mail の設定は必要ありません。

※[User must change password]を有効にしてユーザーを作成すると、アカウントへの初回ログイン時にパスワードの変更を求められます。パスワードは8文字以上（初期値）で設定を行ってください。

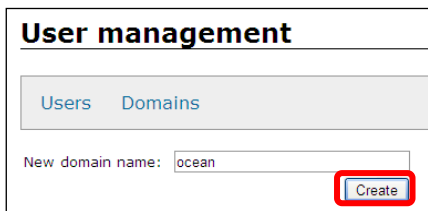
※新たにサーバー管理者を追加したい場合は、ユーザー作成後、再度ユーザー画面を開き [Server Admin ("/conf" access only)] を[YES]に設定してください。管理者同様、新たに作成したサーバー管理者はオンラインページへログインして製品を利用することはできません。

Name	Action
default	Create user
oceanbird	Create user

特定のドメインに属するユーザーを作成する場合は [User management]-[Domains] でドメインの作成を行い、表示されるドメイン横に表示される [Create user] を選択します。

新規ドメインの作成

User management > Domains > Create domain



User management

Users Domains

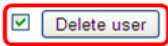
New domain name: ocean

Create

新規ドメインを作成する場合は、[User management]-[Domains]-[Create domain]を選択します。ドメイン名を入力したら[Create]を選択します。

ユーザー（ドメイン）の削除

User management > Users (Domains)

1. 管理画面の左メニューから[User management]を選択します。
2. [Users]（[Domains]）を選択します。
3. 削除したい「ユーザー（ドメイン）名」を選択します。
4. 画面下の[Delete user]（[Delete Domains]）横にチェックを入れ、[Delete user]を選択します。
5. ユーザー（ドメイン）の関連データを削除する確認画面が表示されるため、再度[Delete user]（[Delete Domains]）横にチェックを入れ、[Delete user]を選択します。

➡（補足）削除データの確認

データの削除後もサーバーは一定期間データを保持するため、復元が可能です。[Show deleted]を選択すると、既に削除済みのデータを確認できます。データを選択し、[Undelete selected]操作を行うことで使用中のデータに復元が可能です。

削除データの保持期間は変更が可能です。

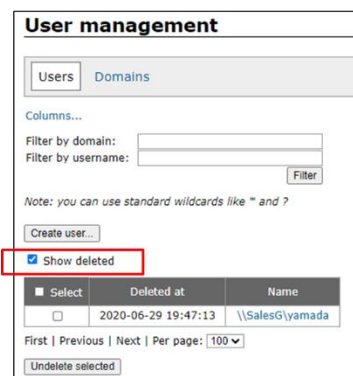
Data lifecycle > Deleted data lifecycle settings > Keep deleted data available for undelete (1d 2h 3m 4s):

（例）データの保持期間を1時間半とする場合：[1h 30m]

NTPサーバーとの同期に失敗、または非同期の際に表示されるエラーメッセージ(ISL Conference Proxy: Cannot perform automatic deleted data lifecycle policy, NTP sync failed)は、以下の設定を[No]に変更することで回避できます。

Data lifecycle > Deleted data lifecycle settings >

Require successful NTP sync for delete:



User management

Users Domains

Columns...

Filter by domain:

Filter by username: Filter

Note: you can use standard wildcards like * and ?

Create user...

☒ Show deleted

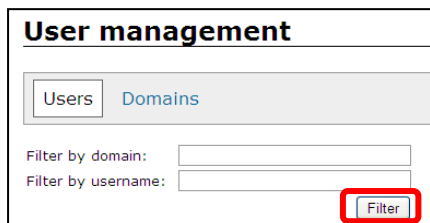
Select	Deleted at	Name
☐	2020-06-29 19:47:13	\\SalesGiyamada

First | Previous | Next | Per page: 100

Undelete selected

ユーザー（ドメイン）の検索

User management > Users (Domains)



User management

Users Domains

Filter by domain:

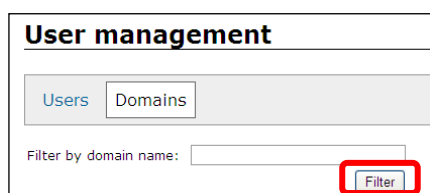
Filter by username:

ユーザーを検索するには [User management]-[Users]-[Filter by domain] にドメイン名、[Filter by username] にユーザー名を入力して [Filter] を選択します。

※例: Filter by domain :ocean

Filter by username: test*

⇒ドメイン「ocean」に所属する、先頭に「test」の文字がつくユーザーを検索します



User management

Users Domains

Filter by domain name:

ドメインを検索するには [User management]-[Domains]-[Filter by domain name] にドメイン名を入力し、[Filter] を選択します。

ユーザー（ドメイン）ごとに固有の設定を行う

User management > Users (Domains)

ユーザー（ドメイン）ごとに異なる設定を行う場合は、それぞれのメニュー画面を開いて設定を行います。

- 1. 管理画面の左メニューから [User management] を選択します。
- 2. [Users (Domains)]の画面を開きます。
- 3. 任意のユーザー（ドメイン）名を選択します。

Name	Action	Login enabled	ISL AlwaysOn	ISL Groop	ISL Light
Domain default	Create user	Yes	Yes	Yes	Yes
\\default\admin		Yes	Yes	Yes	Yes
\\default\test		Yes	Yes	Yes	Yes
\\default\test2		Yes	Yes	Yes	Yes

- 4. 上部からメニューを選択し、必要な設定を行った後 [Save]を選択し、設定を保存します。

User \\default\test

GeneralSecurityPluginsActionsISL AlwaysOnISL GroopISL LightISL ProntoBulk filesRaw data

Login as user...

Default	Setting	Value
Account		
Main Account		
☒ Main User		No
Server Administration		
Server Admin ("cont" access only)		No
Domain Administration		
☒ Domain Admin		Yes
☒ Create, edit and delete users (domain admin only)		Yes
☒ Create, edit and delete user groups (domain admin only)		Yes
☒ Create, edit and delete computer groups (domain admin only)		Yes
☒ Edit domain settings (domain admin only)		Yes
Computer Groups		
☒ Create computer groups		Yes
☒ Edit computer groups		Yes
☒ Delete computer groups		Yes
☒ Allow multilicense IDs		No (allow override)
External ID:		
☒ Deny XLMMSG updates		No
Show GPO location		Automatic

SaveDelete user...

上部から選択可能なメニューの一覧	
General	ドメイン名、ユーザー名、パスワードなどの変更ができます。
Security	セッションのセキュリティの設定などができます。
Plugins	ISL Light や ISL AlwaysOn が使用するプラグインの選択などができます。
Actions	ISL AlwaysOn のアクション機能の有効化/無効化などが設定できます。
ISL AlwaysOn	ISL AlwaysOn の有効化および無効化などが設定できます。
ISL Groop	ISL Groop の有効化および無効化などが設定できます。
ISL Light	ISL Light の有効化および無効化などが設定できます。
ISL Pronto	ISL Pronto の有効化および無効化などが設定できます。
Bulk files	使用しません。
Raw data	使用しません。

1.6 ユーザーの設定を保護する

メインユーザーに設定することで、誤ってアカウントを削除・無効化してしまうことを防ぎます。
この設定がされているユーザーの設定は、他のドメイン管理者でも変更することができません。

メニュー

User management > Users

1. 管理画面の左メニューから [User management] を選択します。
2. [Users] の画面を開きます。
3. 任意のユーザー名を選択します。

Name	Action	Login enabled	ISL AlwaysOn	ISL Groop	ISL Light
Domain default	Create user	Yes	Yes	Yes	Yes
\\default\admin		Yes	Yes	Yes	Yes
\\default\test		Yes	Yes	Yes	Yes
\\default\test2		Yes	Yes	Yes	Yes

4. [Main User] のチェックを外し、[Yes] を選択します。

Account
Main Account
☐ Main User ⓘ: Yes ▾

5. 画面下にある [Save] を選択して、設定を保存します。

1.7 使用するポートを制限する

ISL Conference Proxy は、初期値で 7615（推奨）、443（必須ではありません）、80（必須ではありません）の 3 つのポートが指定されていますが、これ以外のポートを指定して使うこともできます（ISL 製品の最適なパフォーマンスを実現するには「7615」のポートの開放を推奨）。使用するポートを 7615 のみに設定した場合は、クライアント端末で外向きの TCP ポート 7615 が開放されている必要があります（代替手段として 21（FTP）、110（POP3）、143（IMAP）などのよく使われる他のポートで動作するよう設定する方法もございます）。

使用するポートを変更、あるいは管理画面でポートに関するエラーが表示されている場合は以下の手順に従ってください。

メニュー

Configuration > General > HTTP ports:

1. [Configuration]-[General]を選択します。
2. [HTTP ports:]のチェックを外し、必要に応じてポート 80 または 443 を削除します。
※使用するポートを変更する場合は既存のポートを削除し、任意のポート番号を追加してください。
3. 画面下の[Save]を選択します。
4. [Restart ISL Conference Proxy]（サーバーの再起動）が表示されます。選択して ISL Conference Proxy を再起動します。
※[Restart ISL Conference Proxy]が表示されない場合は、F5 キーを押してブラウザを更新してください。
5. 再起動が正常に終了すると、[Please click here to go back to the session]が表示されます。選択すると管理画面に戻ります。

※使用するポートから管理画面へのアクセスに使用しているポートを削除した場合は、設定後サーバーを再起動した際に自動で管理画面に戻らなくなります。10 分程度お待ちいただいた後に管理画面（<http://localhost:ポート番号/conf>）に直接アクセスしてください。

※ポートを変更した際は、セッションを開始する前に製品プログラム（ISL Light など）を再取得する必要があります。ポート変更以前に取得した製品プログラムを使用した場合は、セッション開始時にエラーメッセージが表示される場合があります。

※ISL Conference Proxy をインストールしている端末で bat ファイルを実行することで設定したポート制限を初期化できます。以下からダウンロードできる ZIP ファイルを解凍して bat ファイルをご利用ください。

▼ポート制限リセットツール

https://www.islonline.jp/help/file/icp_reset_ports.zip

1.8 メールサーバーを設定する

メールサーバーの設定を行います。メールサーバーを設定すると、ISL Conference Proxy 内でエラーが発生した場合などに自動で管理者に通知が送られるようになります。

※パスワードを忘れた際にユーザー側でパスワードを再設定できるようにする場合や、Web 会議で参加者に招待メールを送信する場合は、メールサーバーの設定が必要です。

E-mail setup

ISL Conference Proxy sends various information via e-mail. Please, enter the fields, so the server will be able to notify you about critical events, send session invitations, etc.

SMTP Server:

localhost

Port:

25

SMTP Connection Type:

normal

SMTP Authentication:

none

SMTP User:

Password:

Default from e-mail address:

admin@localhost

System e-mail goes to:

admin@localhost

Relay test e-mail address:

islcptest@yahoo.com, islcptest@ho

Save

Save and Send test e-mail

メニュー

Configuration > Basic > E-mail setup

設定一覧	
SMTP Server: Port:	メールサーバーのアドレス（IP アドレスまたは FQDN）、ポート番号を入力します（初期値:25）。管理者がこのメールサーバーのローカルアカウントでない場合は、ISL Conference Proxy からのメールが中継されるようにする必要があります。
SMTP Connection Type:	SMTP サーバーが通信内容を暗号化するため、SSL 通信または TLS 通信を行うかどうかを選択します。（初期値:STARTTLS）
SMTP Authentication:	SMTP サーバーが認証を行う場合の認証方法を選択します。認証にプレーンテキストを利用する場合は[Plain text]を選択します（初期値: none（なし））。
SMTP User: Password:	SMTP Authentication で、[Plain text]を選択した際に入力します。 SMTP 認証用のユーザーID およびパスワードを入力します。

Default from e-mail address:	管理者のメールアドレス、または任意のメールアドレスを設定します。ここで設定したメールアドレスは送信元のアドレスになります。 (必ずしも有効なメールアドレスを設定する必要はありませんが、有効なアドレスのドメイン名を設定してください。ドメイン名が存在しない場合は、ISL Conference Proxy は通知メールを送信できません。) ※メールアドレスに加えて名前を設定することも可能です。 例 1 : ocean bridge <test@test.jp> 例 2 : "ocean bridge" <test@test.jp>
System e-mail goes to:	システムに異常があった際に通知されるメールアドレスです。管理者のメールアドレスや任意のメールアドレスを設定します。カンマで区切ることにより、複数のアドレスを指定できます。[Save and send test e-mail]を選択すると、ここで設定したメールアドレスにテストメールが送信されます。
Relay test e-mail address:	ISL Conference Proxy で、SMTP サーバーからのメールの中継が許可されているか確認を行えます。カンマで区切ることにより、複数のメールアドレスが指定できます。指定するアドレスのドメイン名は、有効なものである必要があります。[Save and send test e-mail]を選択すると中継の確認が行われます。
Save:	入力した設定内容を保存します。
Save and Send test e-mail:	設定を保存してテストメールの送信とメールの中継の確認を行います。

1.9 コードサイニング証明書を有効（無効）にする

初期設定では、ライセンスファイルに含まれるコードサイニング証明書を使用してプログラム（ISL Light など）にデジタル署名が付与されます。コードサイニング証明書によるデジタル署名の付与を無効にする場合は、以下の手順に従ってください。

メニュー

Configuration > Security > Use authenticode from license:

1. [Configuration]-[Security]を選択します。
2. [Use authenticode from license:]のチェックを外し、[No]を選択します。
3. 右下にある[Save]を選択して設定を保存します。

1.10 サーバー名・背景色を変更する

プログラム上および管理画面に表示されるサーバー名や管理画面上部の背景色を変更できます。任意のサーバー名を設定することで、ユーザーの利便性向上や複数サーバーを管理しやすくなるなどのメリットがあります。

※ISL Light Desk&Client（Windows 版）には適用されません。

メニュー

Configuration > General > Installation name (サーバー名)

Configuration > General > Title background color (背景色)

1. [Configuration]-[General]を選択します。
2. サーバー名を変更する場合は、[Installation name:]のチェックを外し、任意の名称を半角英数字で入力します（日本語や記号は認識されません）。
3. 背景色を変更する場合は、[Title background color:]のチェックを外し、変更したい色の Hex 値（例：#666）を入力します。
4. 右下にある[Save]を選択して設定を保存します。

例：サーバー名を「My Server」、背景色を「#000（黒）」に変更した場合

My server		
General		
Default	Setting	Value
☒	Database secret:	
☒	Outgoing mail server (SMTP):	localhost
☒	SMTP port:	25
☒	SMTP connection:	STARTTLS
☒	SMTP authentication:	none

2 オンラインページの設定

2.1 ユーザーにドメイン管理者権限を与える

ユーザーをドメイン管理者に昇格させることで、ドメイン管理ダッシュボード上でドメイン内のユーザーやコンピューターグループの管理、ドメインや各ユーザーの設定の変更が行えるようになります。

メニュー

Configuration > General > Domain Admin:

※ 特定のユーザー（ドメイン）に対して設定を有効にする場合は以下で設定を行います。

[User management]-[ユーザー名（ドメイン名）]-[General]

※ ドメイン管理ダッシュボードでも設定が可能です。

1. [Configuration]-[General]を選択します。
2. [Domain Admin:]のチェックを外して[Yes]にします。
3. 画面下にある[Save]を選択して、設定を保存します。

➡（補足）

ドメイン管理ダッシュボードの閲覧のみを許可し、ドメイン内のユーザーやコンピューターの管理、ドメインや各ユーザーの設定変更を禁止することもできます。

ユーザー/ユーザーグループの管理、ドメイン設定の変更を禁止する

Configuration > General

- Create, edit and delete users (domain admin only):
- Create, edit and delete user groups (domain admin only):
- Edit domain settings (domain admin only):

※ 特定のユーザー（ドメイン）に対して設定を有効にする場合は以下で設定を行います。

[User management]-[ユーザー名（ドメイン名）]-[General]

※ ドメイン管理ダッシュボードでも設定が可能です。

1. [Configuration]-[General]を選択します。
2. 以下3つの設定のチェックを外して[No(deny override または allow override)]を選択します。

☐	Create, edit and delete users (domain admin only) ⓘ:	No (deny override) ▼
☐	Create, edit and delete user groups (domain admin only) ⓘ:	No (deny override) ▼
☐	Edit domain settings (domain admin only) ⓘ:	No (deny override) ▼

※[No (allow override)] : ドメインやユーザーごとの無効/有効の設定変更が可能です。

※[No (deny override)] : ドメインやユーザーごとの無効/有効の設定変更が不可能です。

3. 画面下にある[Save]を選択して、設定を保存します。

➡ (補足) ドメイン管理ダッシュボード

ドメイン管理権限を付与されたユーザーでオンラインページにログイン後、画面右上のユーザー一名を選択して「ドメイン管理」を選択すると表示できます。



ドメイン管理ダッシュボードでは、タブを切り替えて以下の機能が利用できます。

- **コンピューターグループ** : コンピューターグループの所有者を変更できます。
- **ユーザー** : ドメイン内のユーザーを管理します。氏名と Email の設定、パスワードの変更の他、管理者ページを介さずに一部のユーザー設定を変更できます。
- **ユーザーグループ** : ユーザーグループの作成・編集・削除が可能です。ドメイン内のユーザーを選択してユーザーグループに登録することができます。ユーザーは複数のユーザーグループに所属可能です。操作方法については「8.3 ユーザー情報を CSV に出力する」ご参照ください。
- **監査ログ** : ドメイン管理ダッシュボード上での、ユーザーの管理や設定変更のログなどが記録されます。
- **設定** : 管理者ページを介さずに一部のドメイン設定を変更できます。

ドメイン管理機能の詳しい情報については、以下をご覧ください。

<https://islsupport.oceanbridge.jp/portal/ja/kb/isl-online/manual/administration>

2.2 コンピューターグループの管理を禁止する

ユーザーがコンピューターグループの作成や編集などを行うことを禁止できます。

メニュー

Configuration > General

- Create computer groups:
- Edit computer groups:
- Delete computer groups:

※ 特定のユーザー（ドメイン）に対して設定を有効にする場合は以下で設定を行います。

[User management]-[ユーザー名（ドメイン名）]-[General]

※ ドメイン管理ダッシュボードでも設定が可能です。

1. [Configuration]-[General]を選択します。
2. 以下3つの設定のチェックを外して[No (deny override または allow override)]を選択します。

Computer Groups	
☐ Create computer groups ⓘ:	No (deny override) ▼
☐ Edit computer groups ⓘ:	No (deny override) ▼
☐ Delete computer groups ⓘ:	No (deny override) ▼

※[No (allow override)] : ドメインやユーザーごとの無効/有効の設定変更が可能です。

※[No (deny override)] : ドメインやユーザーごとの無効/有効の設定変更が不可能です。

3. 画面下にある[Save]を選択して、設定を保存します。

2.3 プロフィールの変更を禁止する

ユーザーが「プロフィール」ページから設定変更することを禁止できます。「プロフィール」画面は、オンラインページにログイン後、画面右上のユーザー名を選択して「プロフィール」を選択することで表示します。

メニュー

Configuration > General

- Edit full name:
- Edit e-mail:
- Edit nickname:
- Change time zone:

※ 特定のユーザー（ドメイン）に対して設定を有効にする場合は以下で設定を行います。

[User management]-[ユーザー名（ドメイン名）]-[General]

※ ドメイン管理ダッシュボードでも設定が可能です。

1. [Configuration]-[General]を選択します。
2. 以下4つの設定のチェックを外して[No (deny override または allow override)]を選択します。

※[No (allow override)]：ドメインやユーザーごとの無効/有効の設定変更が可能です。

※[No (deny override)]：ドメインやユーザーごとの無効/有効の設定変更が不可能です。

3. 画面下にある[Save]を選択して、設定を保存します。

2.4 アクセスを禁止する

セキュリティ上の観点から、ユーザーが特定の IP アドレス範囲外からオンラインページの指定したページにアクセスすることを禁止できます。

➡ (補足)

ISL Conference Proxy をインストールしている端末で bat ファイルを実行することでアクセス禁止制限を初期化できます。以下からダウンロードできる ZIP ファイルを解凍して bat ファイルをご利用ください。

▼アクセス禁止設定リセットツール

https://www.islonline.jp/help/file/icp_reset_web_access_filter.zip

メニュー

Configuration > Security > Filters that define access to web pages:

1. [Configuration]-[Security]を選択します。
2. [Filters that define access to web pages:]のチェックを外し、アクセス制限の内容を入力します。
例 1 : ログイン画面 (/users/main/login.html) に対し、特定のローカルエリアネットワーク (192.168.0.X/255.255.255.0) 以外からのアクセスを禁止する場合
`[path=/users/main/login.html]`
`allow_ip 192.168.0.1/24; deny_all;`
例 2 : オンラインページ全体に対し、特定のローカルエリアネットワーク (192.168.0.X/255.255.255.0) 以外からのアクセスを禁止する場合
`[path=/users/*]`
`allow_ip 192.168.0.1/24; deny_all;`
3. 画面下にある[Save]を選択して、設定を保存します。
4. 指定した IP アドレス範囲外から指定したページにアクセスすると「Error 403: Forbidden」が表示され、アクセスできなくなります。

2.5 2段階認証を有効にする

2段階認証を有効にすると、アカウントのセキュリティを強化できます。ログイン時にパスワード入力に加えて認証アプリ、Email から取得できるセキュリティコードの入力が必要になります（認証アプリは Google Authenticator のみサポート対象）。

※2段階認証の設定はユーザーごと個別に、オンラインページ上で行います。

※Email による2段階認証をご利用いただく場合は、別途メールサーバーの設定が必要になります。

1. [User management]を選択して、設定を行うユーザーを選択します。
2. [Login as user...]を選択すると、参照中のユーザーでオンラインページにログインします。
3. 画面右上のユーザー名を選択して、[セキュリティ]を選択します。
4. セキュリティページが開きます。[2段階認証]の欄を選択します。



5. 2段階目の認証の方法（[認証アプリ]または[Email]）をチェックし、[開始する]を選択します。

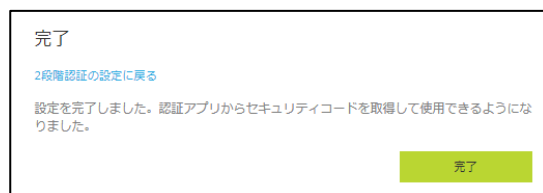
認証アプリの場合

- 4-1. 通称（任意の名前）を設定して、「次へ」を選択します。
- 4-2. デバイス上で認証アプリ（Google Authenticator）を起動し、アカウントのセットアップを行います。（手動で設定を行う方法については、『アカウントページマニュアル』をご参照ください）
- 4-3. 認証アプリ上で、セキュリティコードを発行します。



- 4-4. 発行された認証コードをオンラインページ上に入力し、「次へ」を選択します。

- 4-5. 認証を完了すると設定が保存され、以下のメッセージが表示されます。



以降、設定したアカウントでオンラインページまたは ISL Online 製品の UI からログインを行うと、通常のログイン情報（ユーザー名、パスワード）の入力に続き、認証アプリから発行された認証コードの入力が必要になります。

Email の場合

- 4-1. セキュリティコードの送信先（Email アドレス）を入力して、「次へ」を選択します。
- 4-2. 登録した Email 宛に、セキュリティコード（6 桁）が通知されます。



- 4-3. 発行された認証コードをオンラインページ上に入力し、「次へ」を選択します。
- 4-4. 認証を完了すると設定が保存され、以下のメッセージが表示されます。



以降、設定したアカウントでオンラインページまたは ISL Online 製品の UI からログインを行うと、通常のログイン情報（ユーザー名、パスワード）の入力に続き、登録した Email 宛に通知されるセキュリティコードの入力が必要になります。

2.6 セッションコードの「発行」を禁止する

セキュリティ上の観点から、特定の IP アドレスおよび MAC アドレスを持つ端末以外でセッションコードを発行することを禁止できます。

- ・ 接続する側の接続（ワンタイム接続および常駐接続）を禁止します。接続される側の IP アドレスの範囲を制限するものではありません。
- ・ 常駐接続のクライアントごとに接続できる IP アドレスを指定する場合は、クライアントの ISL AlwaysOn で設定（フィルタ）を行う必要があります。詳しくは『常駐接続（ISL AlwaysOn）マニュアル』をご参照ください。

メニュー

Configuration > ISL Light > Desk code request IP filter:

※特定のユーザー（ドメイン）に対して設定を有効にする場合は以下で設定を行います。

[User management]-[ユーザー名（ドメイン名）]-[ISL Light]

※ドメイン管理ダッシュボードでも設定が可能です。

1. [Configuration]-[ISL Light]を選択します。
2. [Desk code request IP filter:]のチェックを外し、アクセス制限の内容を入力します。
書式: [allow_|deny_] [ip|mac|all] (; [allow_|deny_] [ip|mac|all]...)
例: 特定のローカルエリアネットワーク (192.168.0.X/255.255.255.0)、または MAC アドレス (00-12-34-56-78-90) 以外からのアクセスに対してセッションコードの取得を禁止する場合
`allow_ip 192.168.0.1/24; allow_mac 00-12-34-56-78-90; deny_all`
3. 画面下にある[Save]を選択して設定を保存します。

■オンラインページ

- ・ワンタイム接続: アクセスすると、エラーメッセージが表示されます。
(MAC アドレスによる制限の場合は接続の開始時にエラーが表示されます。)
- ・常駐接続: クライアントのアクセスパスワードを入力するとエラーが表示されます。

ワンタイム接続 (ISL Light) のページにアクセスできません。管理者に連絡してください。

■ISL Light、ISL Light Desk

セッションコード取得時や常駐接続の開始時にエラーメッセージが表示され、製品の利用が制限されます。

※現在、ユーザー名が間違っている旨のエラーメッセージが表示されます。

2.7 セッションコードの「入力」を禁止する

セキュリティ上の観点から、特定の IP アドレスおよび MAC アドレスを持つ端末以外でセッションコードを入力してセッションに参加することを禁止できます。

メニュー

Configuration > ISL Light > Desk user to Client IP filter:

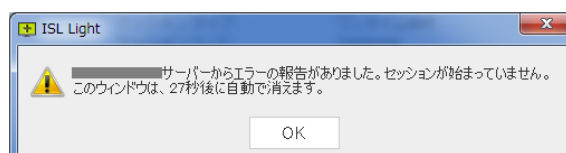
※特定のユーザー（ドメイン）に対して設定を有効にする場合は以下で設定を行います。

[User management]-[ユーザー名（ドメイン名）]-[ISL Light]

1. [Configuration]-[ISL Light]を選択します。
2. [Desk user to Client IP Filter:]のチェックを外しアクセス制限の内容を入力します。
書式: [allow_|deny_|ip|mac|all](: [allow_|deny_|ip|mac|all]...)
例: 特定のローカルエリアネットワーク (192.168.0.X/255.255.255.0)、または MAC アドレス (00-12-34-56-78-90) 以外からのアクセスに対してセッションコードの取得を禁止する場合
`allow_ip 192.168.0.1/24; allow_mac 00-12-34-56-78-90; deny_all`
3. 画面下にある[Save]を選択して、設定を保存します。
4. セッションコードの入力が禁止されます。

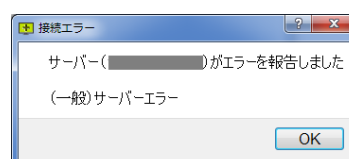
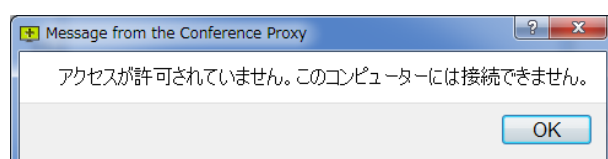
■オンラインページ（セッション参加）

セッションコードを入力して[参加する]を選択した後、ISL Light Client を起動するとエラーが表示されます。



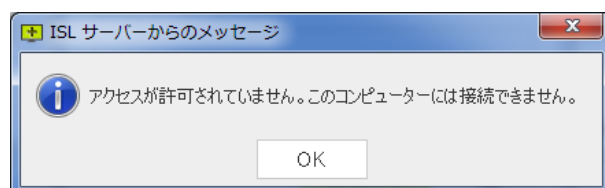
■ ISL Light（セッション参加）

セッションコードを入力して[参加する]を選択すると、エラーが表示されます。



■ISL Light Client

起動すると、エラーが表示されます。



2.8 製品の使用を禁止する

ワнтаイム (ISL Light、ISL Light Desk)、常駐接続 (ISL AlwaysOn)、Web 会議 (ISL Groop)、ライブチャット (ISL Pronto) のプログラムの使用を禁止できます。

メニュー (ワнтаイム接続/ISL Light、ISL Light Desk) ※注

[Configuration](#) > [ISL Light](#) > [ISL Light](#):

メニュー (常駐接続/ISL AlwaysOn)

[Configuration](#) > [ISL AlwaysOn](#) > [ISL AlwaysOn](#):

メニュー (Web 会議/ISL Groop)

[Configuration](#) > [ISL Groop](#) > [ISL Groop](#):

メニュー (ライブチャット/ISL Pronto)

[Configuration](#) > [ISL Pronto](#) > [ISL Pronto](#):

※ ドメイン管理ダッシュボードでも設定が可能です

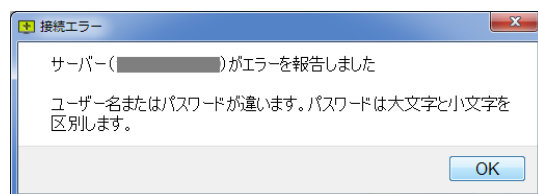
➡ (補足)

常駐接続は接続時にワнтаイムのプログラム (ISL Light) を使用するため、ワнтаイム接続の使用を禁止した場合は常駐接続 (クライアントへの接続) も禁止されます。

1. [Configuration]-[製品名]を選択します。
※ワнтаイム接続 : ISL Light / 常駐接続 : ISL AlwaysOn / Web 会議 : ISL Groop
2. [製品名 disabled:]のチェックを外し、「No (deny override)」を選択します。
3. 画面下にある[Save]を選択して、設定を保存します。
4. プログラムの使用が禁止されます。

■ワнтаイム接続 (ISL Light、ISL Light Desk) の場合

- ・ オンラインページ上では、アクセス権限に関するエラーが表示されます。
- ・ ISL Light、ISL Light Desk では、セッションコードが取得できなくなります。



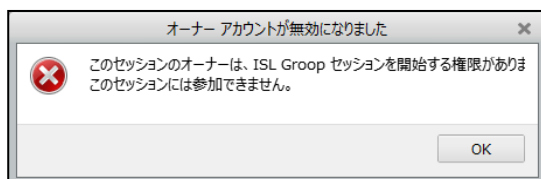
※「ユーザー名～区別します」という誤ったメッセージが表示されますが無視してください。

■常駐接続（ISL AlwaysOn）の場合

- ・ オンラインページ上では、アクセス権限に関するエラーが表示されます。
- ・ ISL Light の常駐タブに、コンピューター一覧が表示されなくなります。

■Web 会議（ISL Groop）の場合

- ・ オンラインページ上では、アクセス権限に関するエラーが表示されます。
- ・ 既にダウンロード（保存）していた exe を起動して会議を開始した場合には、エラーメッセージが表示されます。



➡（補足）

製品の使用を禁止している際に表示されるエラーメッセージは、以下の設定で編集できます。

メニュー

Configuration > Security > Error message for disabled module:

1. [Configuration]-[Security]-[Error message for disabled module:]を選択し、チェックボックスを外してテンプレートの編集を行います。

例：

情報システムからのお知らせ：

2017 年 12 月 29 日 19:00～23:00 の間は、社内設備点検のため\$module\$の利用を禁止しています。

緊急の場合は鈴木までご連絡ください。（内線：1234）

※緑字は「製品名」、
は「改行」を意味します。

2. 画面下の[Save]を選択して設定を保存します。
3. ログイン後にメッセージが表示されます。



2.9 製品のダウンロードを禁止する

ワンタイム (ISL Light、ISL Light Desk、ISL Light Client)、常駐接続 (ISL AlwaysOn)、Web 会議 (ISL Groop)、ライブチャット (ISL Pronto) のプログラムについて、オンラインページからのダウンロードを禁止できます。

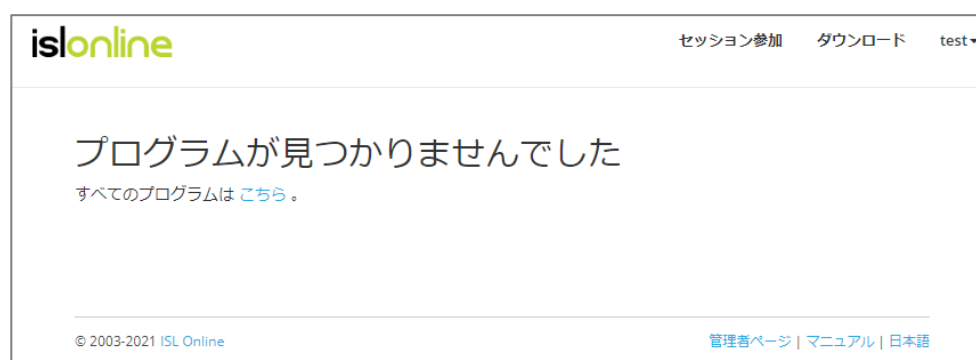
メニュー

[Configuration](#) > [Advanced](#) > [Programs](#) > [Allow program ISL Light:](#)
[Configuration](#) > [Advanced](#) > [Programs](#) > [Allow program ISL Light Desk:](#)
[Configuration](#) > [Advanced](#) > [Programs](#) > [Allow program ISL Light Client:](#)
[Configuration](#) > [Advanced](#) > [Programs](#) > [Allow program ISL AlwaysOn:](#)
[Configuration](#) > [Advanced](#) > [Programs](#) > [Allow program ISL Groop:](#)
[Configuration](#) > [Advanced](#) > [Programs](#) > [Allow program ISL Pronto:](#)

1. [Configuration]-[Advanced]-[Programs] を選択します。
2. [Allow program 製品名:] のチェックを外し、「No (deny override)」を選択します。
3. 画面下にある [Save] を選択して、設定を保存します。
4. プログラムのダウンロードが禁止されます。

➡ (補足)

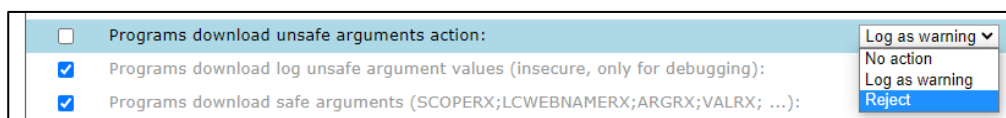
禁止されている製品をオンラインページからダウンロードしようとする、以下のメッセージが表示されます。



カスタマイズ URL のパラメーターに誤りがある場合、製品のダウンロードを禁止することもできます。

Configuration > Advanced > Security > Programs download unsafe arguments action:

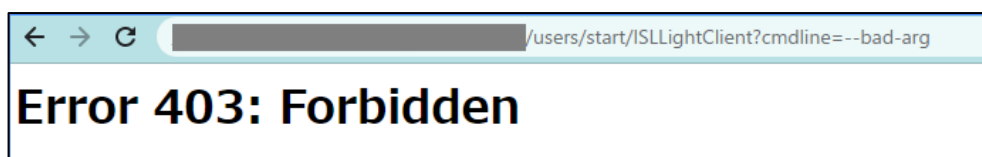
1. [Configuration]-[Advanced]-[Security]を選択します。
2. [Programs download unsafe arguments action:]のチェックを外し、[Reject]を選択します。



3. 画面下にある[Save]を選択して、設定を保存します。

➡ (補足)

カスタマイズ URL のパラメーターに誤りがある製品をダウンロードしようとすると、拒否 (403) 画面が表示されます。



2.10 ログインセッションのタイムアウト時間を変更する

初期値では 1800 秒（30 分）に設定されているオンラインページのタイムアウト時間を変更できます。

※タイムアウト時間は「60 秒（1 分）」以上に設定する必要があります。

メニュー

Advanced > Web server > Websession update timeout (in seconds):

1. [Advanced]-[Web server]を選択します。
2. [Websession timeout:]のチェックを外して、設定時間（秒）を入力します。
例：1 時間（60 分）にする場合 ⇒ 「3600」と入力します。
3. 画面下の[save]を選択して設定を保存します。
4. オンラインページ上で 2 で設定した時間以上無操作状態が続いた場合、操作再開時に以下のエラーメッセージが表示されます。

セッションが無効です。もう一度ログインして下さい。

3 ISL AlwaysOn の設定

3.1 常駐接続端末を共有する

本設定を行うことで、常駐接続の共有機能が利用できるようになります。共有機能を使用すると、あるユーザーが接続できるよう登録(インストール)を行った端末を別のユーザーに紐付けることができます。端末を共有されたユーザーは該当する端末に対して接続のみ可能となり、端末の編集および削除はできません。

※ コンピュータグループを共有することでグループ内の端末の編集および削除権限をユーザーに設定することができます。

※ ユーザーグループへの常駐端末の共有は初期設定で有効です。無効にするには、左メニュー[Configuration] - [Security]のページを開き、以下の設定のチェックを外して [No(deny override または allow override)]を選択して変更を保存します。

- ・ User can view list of user groups in own domain:

ISL Conference Proxy 4.2.10 以降をご利用の場合

Configuration > ISL AlwaysOn >

- User can share connection:

- User (as guest) can share connection with owner in same domain:

- User (as guest) can share connection with owner on same server:

Configuration > Security > User can view list of users in own domain:

1. [Configuration]-[ISL AlwaysOn]を選択します。
2. 以下3つの設定のチェックを外して [Yes] にします。

☐	User can share connection:	Yes v
☐	User (as guest) can share connection with owner in same domain:	Yes v
☐	User (as guest) can share connection with owner on same server:	Yes v

3. [Configuration]-[Security]を選択します。
4. [User can view list of users in own domain:]のチェックを外し、[Yes]にします。

※複数のドメインを設定している場合は、以下の設定も必要です

- ・ User can view list of domains on server
- ・ User can view list of users on server

5. 画面下の[Save]を選択して、変更を保存します。

※特定のユーザー(ドメイン)に対して設定を有効にする場合は以下で設定を行います。

[User management]-[ユーザー名(ドメイン名)]-[ISL AlwaysOn / Security]

※オンラインページ上での共有の設定方法は『常駐接続（ISL AlwaysOn）マニュアル』、ISL Light 上での共有の設定方法は『ISL Light マニュアル』をご参照ください。

ISL Conference Proxy 4.1.6 以前のバージョンをご利用の場合

1. ISL Conference Proxy の管理画面にログインします。
2. 左メニュー[Configuration] - [ISL AlwaysOn] のページを開き、以下の3つの設定のチェックを外して全て[Yes]に変更後、画面下の [Save] を選択して変更を保存します。
 - ・ [Use grouping functionality]
 - ・ [User (as guest) can share connection with owner in same domain]
 - ・ [User (as guest) can share connection with owner on same server]
3. 以下の URL から2つの Zip ファイルをダウンロードし、解凍せずに ISL Conference Proxy のローカル内に保存しておきます。

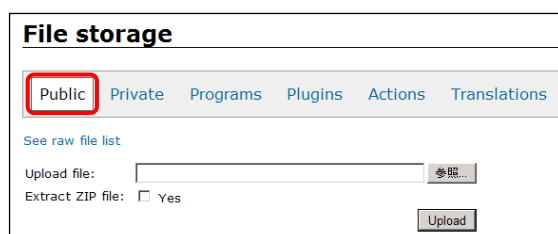
■Public 設定用（1 つ目）

<https://www.oceanbridge.jp/isl/aon/download/isl-aon-bulk-share-public.zip>

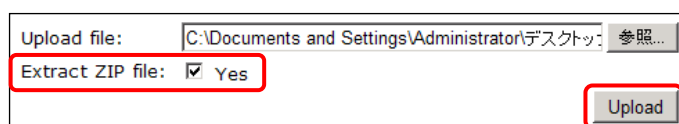
■Private 設定用（2 つ目）

<https://www.oceanbridge.jp/isl/aon/download/isl-aon-bulk-share-private.zip>

4. ISL Conference Proxy の管理画面に戻り、[Configuration]-[Advanced]-[File storage] を選択します。開いているページが「Public」となっていることを確認し、[参照]を選択して3.で保存した「Public 設定用」の Zip ファイルを選択します。



5. [Extract ZIP file:]横のチェックボックスをONにし、[Upload] を選択します。



- 画面上部の [Private] を選択します。[参照] を選択して 3. で保存した「Private 設定用」の Zip ファイルを選択します。続けて [Extract ZIP file:] 横のチェックボックスを ON にし、[Upload] を選択します。

File storage

Public **Private** Programs Plugins Actions Translations

Upload file: 参照...

Extract ZIP file: ☒ Yes

Upload

➡ (補足) 共有の自動登録

以下の設定を行うことで、ISL AlwaysOn をインストール（コンピューターの一覧に新しい端末を追加）した時に自動で共有を行うことが可能です。

メニュー

User management > Users (Domains) > ISL AlwaysOn > Execute following action when access is granted:

- [User management] を選択し、共有の元となるユーザーのアカウントを選択します。

User management

Users Domains

Columns...

Filter by domain:

Filter by username:

Note: you can use standard wildcards

Create user...

Name	Action	Logon	AlwaysOn	ISL Group	ISL Light
Domain default	Create user	Yes	Yes	Yes	Yes
\\default\\admin		Yes	Yes	Yes	Yes
\\default\\test		Yes	Yes	Yes	Yes
\\default\\test2		Yes	Yes	Yes	Yes
\\default\\test4		Yes	Yes	Yes	Yes

例：ユーザーが「¥¥default¥test」の場合

\\default\\test

2. 上部のメニューから[ISL AlwaysOn] を選択し、[Execute following action when access is granted]の設定のチェックを外して以下の文字列を入力後、画面下の [Save] を選択して設定を保存します。

share=%%ドメイン名%接続を許可するユーザー名

例 1：ユーザー「%%default%test2」「%%default%test3」に対して接続を許可する場合
(複数ユーザーを指定する場合は、改行して続けます)

☐ Execute following action when access is granted:	share=%%default%test2 share=%%default%test3
---	--

例 2：ドメイン「default」に所属するすべてのユーザーに対して接続を許可する場合

☐ Execute following action when access is granted:	share=%%default%*
---	-------------------

※ワイルドカード (*) が使用できます

以降、設定を行ったユーザー（ドメイン）が新しい端末を追加した際に、その端末に自動で共有が行われます。共有が設定されている端末にはアイコンが表示され、マウスオーバーすると詳細情報が確認できます。

接続先のコンピューター				その他
☐ 詳細	状態	種類	IPアドレス	アクション
 1 WORKGROUP\DESKTOP-15AICFC コンピューター名: WORKGROUP\DESKTOP-15AICFC 詳細: WORKGROUP\DESKTOP-15AICFC OS: win32 ISL AlwaysOn バージョン: 4.4.1746.22 状態: online 所有しているユーザー: \default% オンライン: 10/8/2018 17:07:46 GMT+0900 (東京 (標準時))	オンライン	所有		接続 ▼
	オンライン	所有		接続 ▼
	オンライン	所有		接続 ▼

※端末を追加する場合は [このコンピューターを追加] を選択、あるいは [このコンピューターを追加] を右クリックしてサイレントインストーラーを作成し、ISL AlwaysOn をインストールしてください。

※既に追加済みの端末へは設定を適用できないため、オンラインページから手動で一斉グルーピングを行う必要があります。一斉グルーピングの手順は『常駐接続（ISL AlwaysOn）マニュアル』をご参照ください。

3.2 エージェントインストールできる端末の台数を制限する

ISL AlwaysOn をエージェントとしてインストールできる端末の台数を制限することができます。ただし、共有された端末はこの台数に含まれません。

同一ドメイン内でのインストール総数を制限する

Configuration > ISL AlwaysOn > Max number of owned connections (hard limit):

※特定のユーザー（ドメイン）に対して設定を有効にする場合は以下で設定を行います。

[User management]-[ユーザー名（ドメイン名）]-[General]

※ドメイン管理ダッシュボードでも設定が可能です

1. [Configuration]-[General]を選択します。
2. [Max number of owned connections (hard limit):] 横のチェックを外して許可する台数を入力します。
3. 画面下にある[Save]を選択して設定を保存します。

1人のユーザーがインストールできる総数を制限する

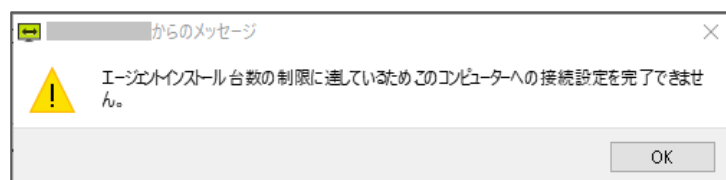
Configuration > ISL AlwaysOn > Max number of owned connections:

※特定のユーザー（ドメイン）に対して設定を有効にする場合は以下で設定を行います。

[User management]-[ユーザー名（ドメイン名）]-[General]

1. [Configuration]-[General]を選択します。
2. [Max number of owned connections:] 横のチェックを外して許可する台数を入力します。
3. 画面下にある[Save]を選択して設定を保存します。

設定値を超えてインストールすると、メッセージが表示されて接続設定を完了できません。



3.3 端末に同時接続できるセッション数を制限する

同一端末へ同時に接続できるセッション数を制限することができます。

メニュー

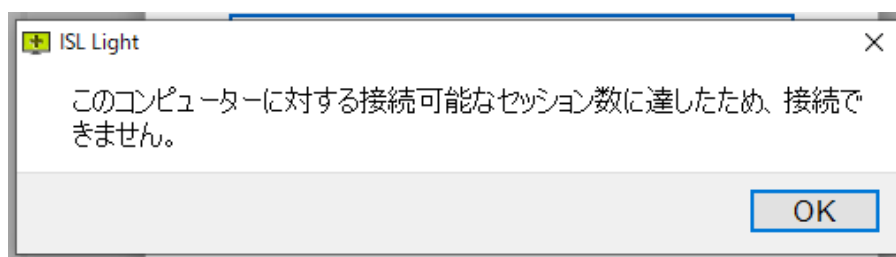
[Configuration](#) > [ISL AlwaysOn](#) > [Max number of active sessions to a ISL AlwaysOn computer](#):

※特定のドメインに対して設定を有効にする場合は以下で設定を行います。

[User management]-[Domains]-[ドメイン名]-[ISL AlwaysOn]

1. [Configuration]-[ISL AlwaysOn]を選択します。
2. [Max number of active sessions to a ISL AlwaysOn computer:]のチェックを外して接続を許可するセッション数を入力します。
3. 画面下の[save]を選択して設定を保存します。

設定を超えて接続しようとするメッセージが表示され、接続できません。



➡ (補足)

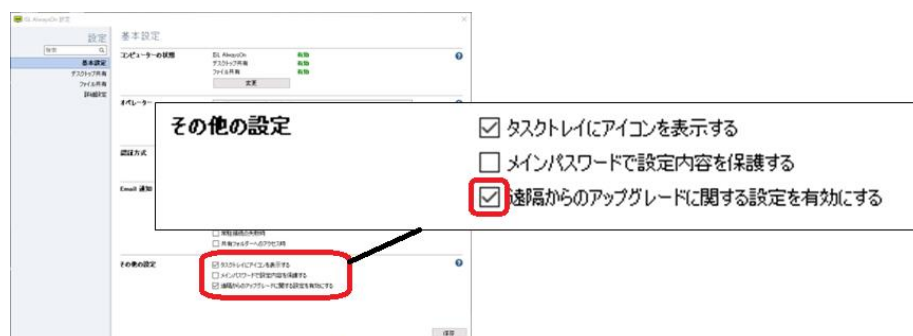
端末ごとに同時接続数を制御することも可能です。詳しくは『常駐接続 (ISL AlwaysOn) マニュアル』をご参照ください。

3.4 プッシュアップグレード

各端末にインストールされた ISL AlwaysOn を管理画面から強制的にアップグレードできます。

➡ (補足)

プッシュアップグレード機能を使用する場合は、クライアント端末にインストールされた ISL AlwaysOn の[設定]-[基本設定]-[その他の設定]-[遠隔からのアップグレードに関する設定を有効にする]にチェックが入っている必要があります (初期値ではチェックが入っています)。



メニュー

Activity monitor > Sessions > Active > This server Computers

1. [Activity monitor]-[Sessions]-[Active]を選択します。
2. 「This server Computers」の端末のリストからアップグレードを行う端末の[Select]にチェックを入れます (プッシュインストールが利用可能な端末は「Supports」の欄に「upgr:Y」と表示されます)。
3. [Push upgrade to selected (Warning: add 'custom' when needed!)] にチェックを入れ、ISL AlwaysOn の最新バージョンが選択されていることを確認します。

This server Computers

Select	DB Id	Name	Address	Custom	GUI Version	Protocol (client,server)	Supports
☒	s-1_0_13	WORKGROUP\DESKTOP-J5T6FR5			4.4.1823.27	1-9, 5-9,12-26,28	upgr:Y demand:Y clone:Y
☐	s-1_0_21	OCEAN\ELT			4.4.1823.32	1-9, 5-9,12-26,28	upgr:Y demand:Y clone:Y
☐	s-1_0_4	OCEAN\SAKA1			4.4.1823.32	1-9, 5-9,12-26,28	upgr:Y demand:Y clone:Y

First | Previous | Next | Per page: 100 ▼

This server Computer Duplicates

Select	DB Id	Name	Address	Custom	GUI Version	Protocol (client,server)	Supports	Connects to	Opened Channels
--------	-------	------	---------	--------	-------------	--------------------------	----------	-------------	-----------------

First | Previous | Next | Per page: 100 ▼

This server Unknown Computers

Select	DB Id	Name	Address	Custom	GUI Version	Protocol (client,server)	Supports	Connects to	Opened Channels
--------	-------	------	---------	--------	-------------	--------------------------	----------	-------------	-----------------

First | Previous | Next | Per page: 100 ▼

☐ Disconnect selected
☐ Disconnect selected and connect back
☒ Push upgrade to selected (Warning: add 'custom' when needed!)
 Program : ISL AlwaysOn 4.4.1823.32 2019-01-22 win32 49236 ▼ arguments : [cmdline=SILENT /VERYSIL]
☐ Push clone computers to selected

Execute

4. [Execute]を選択すると、選択した端末のアップグレードを開始します。

➡ (補足) 自動アップグレードについて

クライアント端末で常に最新バージョンの ISL AlwaysOn を利用する（自動アップグレードを行う）場合は、[Configuration]-[ISL AlwaysOn]-[Automatically upgrade computers to latest version of a program:]のチェックを外して[Yes]に変更し、[Save]を選択して設定を保存します。

☒	Automatically update database:	No
☐	Automatically upgrade computers to latest version of a program:	Yes ▾
☒	Enable push install on computer side:	Yes

設定を保存すると、以降はクライアント端末がサーバーに接続を行った際に強制的に自動でアップグレード（ISL AlwaysOn の最新バージョンのサイレントインストール）が実行されるようになります。

3.5 OS のユーザーによる認証方式を許可する

常駐接続を開始する際に、アクセスパスワードの代わりに接続先端末の Windows/macOS/Linux ユーザーを使用して接続を開始できます（初期値：禁止）。

メニュー

Configuration > ISL AlwaysOn > Allow native only authentication (reconnect required):

1. [Configuration]-[ISL AlwaysOn]を選択します。
2. [Allow native only authentication (reconnect required):]のチェックを外して[Yes]に変更します。
3. 画面下の[save]を選択して設定を保存します。

以降、ISL AlwaysOn のサービスが再起動されサーバーと通信を行ったクライアント端末の[設定]-[基本設定]-[認証方式] から「Windows (macOS) のパスワード」が選択できるようになります。常駐接続で本設定が有効な端末を選択するとアクセスパスワードなしに接続を開始でき、接続時に端末がロックされます。

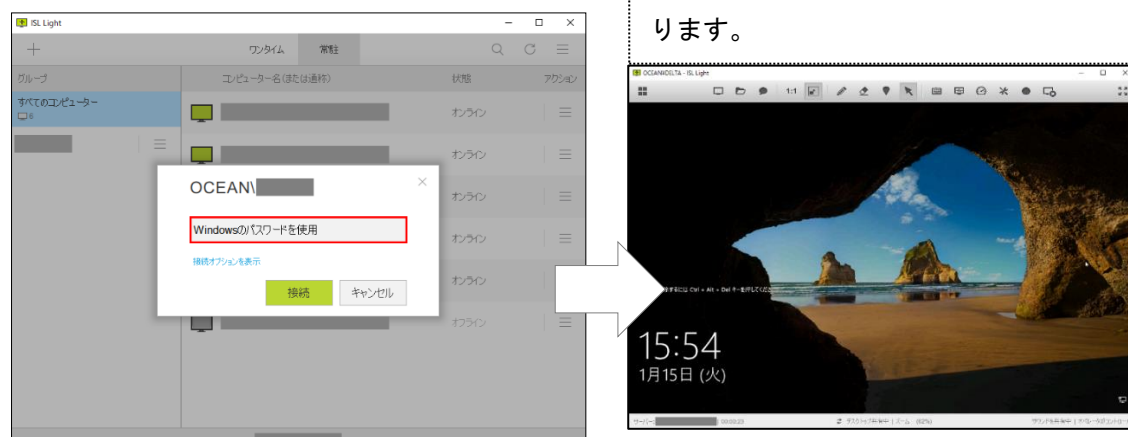
■ ISL AlwaysOn の設定画面

基本設定		
コンピューターの状態	ISL AlwaysOn デスクトップ共有 ファイル共有	有効 有効 有効
変更		
認証方式	☒ メインパスワード ☐ ワンタイムパスワード ☐ Windowsのパスワード	パスワード変更 パスワード発行

➡（補足）

管理画面での設定は、Windows/macOS/Linux ユーザーによる認証方式の使用を許可するものです。実際に機能を利用する場合は、クライアント端末にインストールされた ISL AlwaysOn の設定を有効にする必要があります。

■ 常駐接続の開始画面



3.6 代替接続の使用を許可する

ISL AlwaysOn をインストールしている端末、またはその端末を踏み台としてアクセス可能なネットワークに属する端末に RDP 接続または SSH 接続を行うことができます（初期値：禁止）。本設定はクライアント端末の ISL AlwaysOn の[設定]-[詳細設定]-[トンネル接続]で変更できますが、管理画面から一斉に許可する場合は以下の手順に従ってください。

➡（補足）

本設定は、クライアント端末の ISL AlwaysOn の[設定]-[詳細設定]-[トンネル接続]-[デフォルトのサーバー設定を有効にする]が有効であるすべての端末に適用されます。端末ごとに異なる設定を行う場合は、それぞれの端末で ISL AlwaysOn の設定を変更してください。

メニュー

[Configuration](#) > [ISL AlwaysOn](#) > [Allow tunnel connections \(reconnect required\)](#) :

1. [Configuration]-[ISL AlwaysOn]を選択します。
2. [Allow tunnel connections (reconnect required):]のチェックを外して[Yes]に変更します。
3. 画面下の[save]を選択して設定を保存します。

➡（注意）

- ・ 変更した設定は、クライアント端末で ISL AlwaysOn のサービスが再起動され、サーバーに通信を行ったタイミングで適用されます。
- ・ 代替接続の詳細は、『ISL Light マニュアル』をご参照ください。

➡（補足）

内部ネットワーク端末への接続を目的としたクライアント端末の利用（踏み台）や、ポート転送によるプリンターの使用を制限する場合は、以下の設定を[No]に変更します。

[Configuration](#) > [ISL Light](#) > [RDP / SSH](#) > [Enable Jumpbox functionality](#) :

3.7 パスワードで設定を保護する

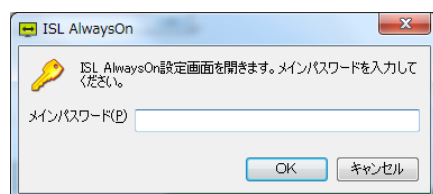
ISL AlwaysOn の「メインパスワードで設定内容を保護する」機能を強制的に有効にできます。これにより、インストール時に設定したアクセスパスワードを入力しなければ ISL AlwaysOn の設定が開けないようにできます（初期値：無効）。

メニュー

[Configuration](#) > [ISL AlwaysOn](#) > [Protect configuration on computer side \(reconnect required\)](#) :

1. [Configuration]-[ISL AlwaysOn]を選択します。
2. [Protect configuration on computer side (reconnect required):]のチェックを外して [Yes]に変更します。
3. 画面下の[save]を選択して設定を保存します。

以降、ISL AlwaysOn のサービスが再起動されサーバーと通信を行ったクライアント端末の「メインパスワードで設定内容を保護する」の設定が強制的に有効になります。ISL AlwaysOn の設定を開くとポップアップウィンドウが表示され、メインパスワードを入力しなければ設定画面を開くことはできません。



3.8 アクションの使用を禁止する

ISL AlwaysOn のアクションを使用すると、システム情報の取得やシャットダウンなどクライアント端末に対してさまざまな機能を実行できます。アクションは初期値では許可（有効）になっています（アクションの詳細は『常駐接続（ISL AlwaysOn）マニュアル』をご参照ください）。アクション機能を禁止する場合は、以下の手順に従ってください。

➡（参考）

ISL Conference Proxy 4.4.1734 以降にアップグレードした場合は、オンラインページ（常駐接続）のメニューの任意のアクションを非表示にすることはできません。

メニュー

Configuration > ISL AlwaysOn > User can use actions functionality:

※特定のユーザー（ドメイン）に対して設定を有効にする場合は以下で設定を行います。

[User management]-[ユーザー名（ドメイン名）]-[ISL AlwaysOn]

1. [Configuration]-[ISL AlwaysOn]を選択します。
2. [User can use actions functionality:]横のチェックを外して[No(deny override または allow override)]を選択します。

☐	User can use actions functionality:	Yes
☒	User can use files functionality:	Yes
☒	Special grant access cmd line:	No (deny override)
		No (allow override)

※[No (allow override)] : ドメインやユーザーごとの無効/有効の設定変更が可能です。

※[No (deny override)] : ドメインやユーザーごとの無効/有効の設定変更が不可能です。

3. 右下にある[Save]を選択して、変更を保存します。
4. 常駐接続画面から以下のアクションを実行すると、エラーメッセージが表示されます。
 - ・パスワード変更
 - ・システム情報
 - ・EXE 実行
 - ・シャットダウン、再起動

アクションが禁止されています。管理者に連絡してください。

3.9 ファイル共有を禁止する

ISL AlwaysOn のファイル共有を使用すると、各端末のフォルダー、ファイルをユーザー間で共有できます（機能の詳細は『常駐接続（ISL AlwaysOn）マニュアル』をご参照ください）。ファイル共有の機能を禁止する場合は、以下の手順に従ってください。

➡（参考）

ISL Conference Proxy 4.4.1734 以降にアップグレードした場合は、オンラインページ（常駐接続）のメニュー内の「共有ファイル」を非表示にできません。

メニュー

Configuration > ISL AlwaysOn > User can use files functionality:

※特定のユーザー（ドメイン）に対して設定を有効にする場合は以下で設定を行います。

[User management]-[ユーザー名（ドメイン名）]-[ISL AlwaysOn]

1. [Configuration]-[ISL AlwaysOn]を選択します。（固有のユーザーに設定する場合は[User management]を選択してユーザー名を選択します。）
2. [User can use files functionality:]横のチェックボックスを外して[No（deny override または allow override）]を選択します。

☐	User can use files functionality:	Yes
☒	Special grant access cmd line:	No (deny override)
☒	Which version of ISL AlwaysOn web interface to show:	No (allow override)
		-1

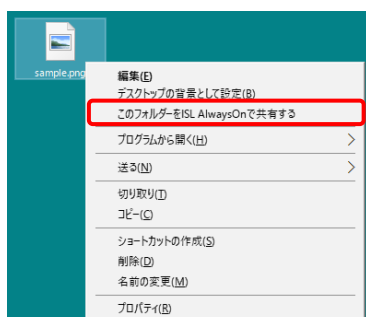
※[No（allow override）]：ドメインごとの無効/有効の設定変更が可能です。

※[No（deny override）]：ドメインごとの無効/有効の設定変更が不可能です。

3. 右下にある[Save]を選択して、変更を保存します。
4. オンラインページの常駐接続画面のメニューから「共有ファイル」を選択すると、エラーメッセージが表示されます。

アクセスが許可されていません。管理者に連絡してください。

3.10 右クリックメニューから共有フォルダーの設定を削除する



右クリックによるメニューから「このフォルダーを ISL AlwaysOn で共有する」機能を削除する場合は、カスタマイズを適用した ISL AlwaysOn を新規インストールする必要があります。

➡ (補足)

- ・ 既に ISL AlwaysOn をインストールしている端末に上書きインストールで設定を追加することはできません。ISL AlwaysOn を一度アンインストールした後、カスタマイズを適用した ISL AlwaysOn を再度インストールする必要があります（解除の場合も同様に、ISL AlwaysOn を一度アンインストールした後、カスタマイズ（右クリックによるメニュー表示禁止）を解除した ISL AlwaysOn を再度インストールしてください）。
- ・ macOS ではご利用になれません。

メニュー

Advanced > Customize > Show expert settings > ISL AlwaysOn installer defaults Windows:

1. [Advanced]-[Customize]を選択します。
2. [Create new customization]を選択します。
3. [Show expert settings]にチェックを入れ、[Customization name]に任意のカスタマイズ名を入力します（カスタマイズ作成後にサイレントインストールで ISL AlwaysOn のインストールを行う場合は、「半角英数」で入力してください）。

Edit customization	
☒ Show expert settings	
Customization name:	カスタマイズA
Use customization by default:	☒ enabled
ISL Group Customizations:	

すべてのユーザー（ドメイン）に適用する場合は [Use customization by default] の [enabled] にチェックを入れます。

4. [ISL AlwaysOn installer defaults Windows:]の欄に、以下のテキストを入力します。

```
AppName=ISL
AlwaysOn2&DefaultDirName=%7Bpf%7D%5CISL%20AlwaysOn2&MainBinary=ISLAlwaysOn2&SkipShellMenu=true
```

5. 画面下の[Save]を選択して、変更を保存します。
- ※3. で[Use customization by default]の[enabled]にチェックを入れた場合は、作成したカスタマイズが初期値の設定として全ユーザーに適用されます。特定のユーザーまたはドメインにカスタマイズを適用する方法は、4. 13（参考）をご参照ください。
6. 以降、カスタマイズを適用した ISL AlwaysOn をインストールすると、右クリックによるメニューからファイル共有の機能が表示されなくなります。
- ※カスタマイズを適用した ISL AlwaysOn のインストール画面では、製品名が「ISL AlwaysOn2」と表示されます。



➡（補足）

- ・ カスタマイズ適用後、ISL AlwaysOn のバージョンアップ（サイレントインストールによる上書きインストール、プッシュアップグレード、オンラインページおよび ISL AlwaysOn の「バージョン情報」からのアップグレード）を行った場合も、右クリックによるメニュー表示禁止の設定は保持されます。
- ・ カスタマイズ適用後は、以下に「ISL AlwaysOn2」という名前のフォルダーが作成されます。
64bit OS の場合：C:\Program Files (x86)
32bit OS の場合：C:\Program Files
- ・ ISL Online の実行プログラムがセキュリティソフトから有害なソフトウェアと検知されてしまう場合には、セキュリティソフトの監視対象から以下でご案内しているフォルダーに加え、上記「ISL AlwaysOn2」フォルダーも除外する必要があります。
▼セキュリティソフトから有害なソフトウェアと検知されてしまう場合にはどうすればいいですか？

https://www.islonline.jp/help/faq_general/whitelist.html

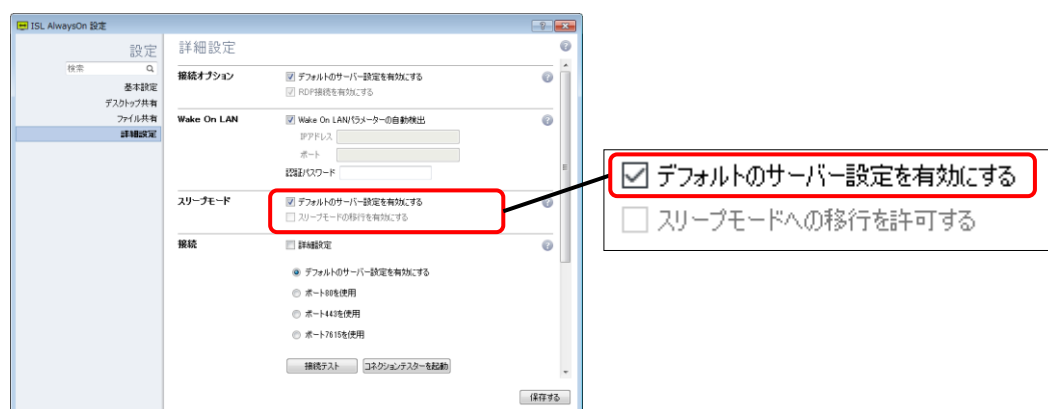
3.11 スリープモードを有効（許可）にする

スリープモードを有効（許可）にすると、ISL AlwaysOn をインストールした端末がスリープモードに移行できるようになります（初期値：無効）。

本設定はクライアント端末の ISL AlwaysOn の[設定]-[詳細設定]-[スリープモード]で変更できますが、管理画面から一斉に許可する場合は以下の手順に従ってください。

➡（補足）

- ・ 端末が Mac の場合は特に設定する必要はありません。Mac ではシステム環境設定（省エネルギー）の設定に従ってスリープモードに移行します。
- ・ 本設定は、クライアント端末の ISL AlwaysOn の[設定]-[詳細設定]-[スリープモード]-[デフォルトのサーバー設定を有効にする]が有効であるすべての端末に適用されます。端末ごとに異なる設定を行う場合は、それぞれの端末で ISL AlwaysOn の設定を変更してください。



メニュー

Configuration > ISL AlwaysOn > Allow computer to go into sleep mode (reconnect required):

1. [Configuration]-[ISL AlwaysOn] を選択します。
2. [Allow computer to go into sleep mode (reconnect required)]のチェックを外して [Yes] を選択します。
3. 右下にある [Save] を選択して変更を保存します。

➡（注意）

変更した設定は、クライアント端末で ISL AlwaysOn のサービスが再起動され、サーバーに通信を行ったタイミングで更新されます。

3.12 利用中の RDP のセッションへの接続を禁止する

常駐接続で「利用中の RDP のセッションへ接続する」の接続オプションを有効にして接続を行うと、RDP (Remote Desktop Protocol) で接続中のセッションに対して接続できます。本機能の使用を禁止する場合は、以下の手順に従ってください。

本設定はクライアント端末の ISL AlwaysOn の[設定]-[詳細設定]-[RDP のセッションへの接続]で変更できますが、管理画面から一斉に許可する場合は以下の手順に従ってください。

➡ (補足)

本設定は、クライアント端末の ISL AlwaysOn の[設定]-[詳細設定]-[RDP のセッションへの接続]-[デフォルトのサーバー設定を有効にする]が有効であるすべての端末に適用されます。端末ごとに異なる設定を行う場合は、それぞれの端末で ISL AlwaysOn の設定を変更してください。

メニュー

Configuration > ISL AlwaysOn > Allow connect to existing computer session (reconnect required):

1. [Configuration]-[ISL AlwaysOn] を選択します。
2. [Allow connect to existing computer session (reconnect required):]のチェックを外して[No]を選択します。
3. 右下にある[Save]を選択して変更を保存します。
4. 接続オプションの一覧から、「利用中の RDP のセッションへ接続する」が表示されなくなります。



➡ (注意)

変更した設定は、クライアント端末で ISL AlwaysOn のサービスが再起動され、サーバーに通信を行ったタイミングで適用されます。

3.13 Client を利用する（接続オプション）

常駐接続で「Client を利用する」の接続オプションを有効にして接続を行うと、接続先で「ISL Light Client」のプログラムが起動しテキストチャットなどの機能が使用できます。（詳細は『常駐接続（ISL AlwaysOn）マニュアル』をご参照ください。）

本設定はクライアント端末の ISL AlwaysOn の[設定]-[デスクトップ共有]-[詳細設定]で変更できますが、管理画面から一斉に変更する場合は以下の手順に従ってください。

➡（補足）

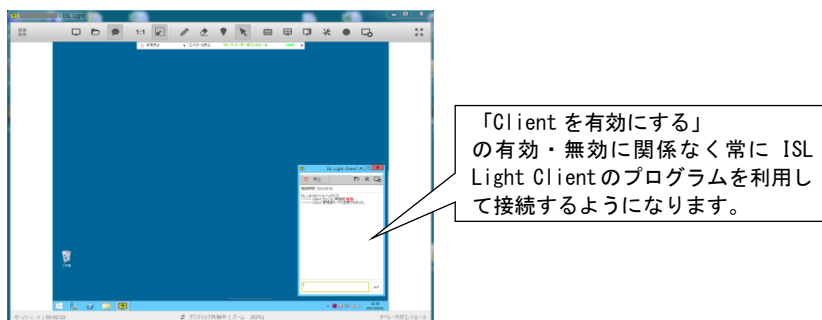
本設定は、クライアント端末の ISL AlwaysOn の[設定]-[デスクトップ共有]-[詳細設定]-[デフォルトのサーバー設定を有効にする]が有効であるすべての端末に適用されます。端末ごとに異なる設定を行う場合は、それぞれの端末で ISL AlwaysOn の設定を変更してください。

メニュー

Configuration > ISL AlwaysOn > Use only downloaded clients (reconnect required):

1. [Configuration]-[ISL AlwaysOn] を選択します。
2. [Use only downloaded clients (reconnect required):]のチェックを外して[Yes]を選択します。
3. 右下にある[Save]を選択して変更を保存します。

以降、接続オプションの設定に関係なく、常に ISL Light Client のプログラムを利用して接続を開始するようになります。



➡（注意）

変更した設定は、クライアント端末で ISL AlwaysOn のサービスが再起動され、サーバーに通信を行ったタイミングで適用されます。

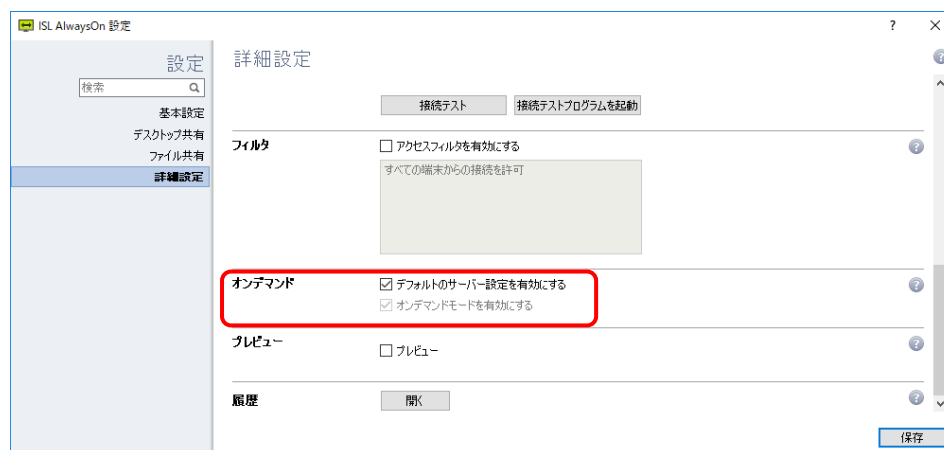
3.14 オンデマンドモードを有効にする

ISL AlwaysOn は初期設定では 30 秒に 1 度、クライアント端末のステータス情報をサーバーに送信するため自動で ISL Conference Proxy に通信を行います。クライアント数が非常に多い環境（例：5000 台など）では、サーバーへの定期通信を行わない ISL AlwaysOn の「オンデマンドモード」を使用することでサーバー負荷を軽減できます（詳細は『常駐接続（ISL AlwaysOn）マニュアル』をご参照ください）。

メニュー

Configuration > ISL AlwaysOn > Allow use OnDemand functionality:

1. [Configuration]-[ISL AlwaysOn] を選択します。
2. [Allow use OnDemand functionality:] のチェックを外して [Yes] を選択します。
3. 画面下にある [Save] を選択して変更を保存します。
4. クライアント端末の [ISL AlwaysOn 設定]-[詳細設定]-[オンデマンド] が表示されます。
以下 2 つの設定にチェックが入っていることを確認します。
 - ・デフォルトのサーバー設定を有効にする
 - ・オンデマンドモードを有効にする



➡ (注意)

変更した設定は、クライアント端末で ISL AlwaysOn のサービスが再起動され、サーバーに通信を行ったタイミングで更新されます。

3.15 端末に接続できる時間を制限する

常駐端末に接続できる曜日・時間帯及び接続時間（秒指定）で制限することができます。代替接続についても本設定で許可された時間外は接続できなくなります。

接続できる曜日・時間帯を制限する場合

Configuration > ISL AlwaysOn > Scheduled access (in UTC):

※特定のユーザー（ドメイン）に対して設定を有効にする場合は以下で設定を行います。

[User management]-[ユーザー名（ドメイン名）]-[ISL AlwaysOn]

※ドメイン管理ダッシュボードでも設定が可能です

1. [Configuration]-[ISL AlwaysOn]を選択します。
2. [Scheduled access (in UTC):]のチェックを外し、書式に従ってアクセスを許可する曜日・時間を入力します。時間は UTC を基準に記載します。

書式：曜日を示す数字=アクセスを許可する時間

※曜日を示す数字 1 は日曜日、7 は土曜日を意味します。

※曜日ごとに指定、または対象となる曜日の範囲を指定して設定することが可能です。

※複数記載する場合はカンマで区切って入力します。

例 1：月曜日から金曜日は 9 時から 17 時までを許可する場合

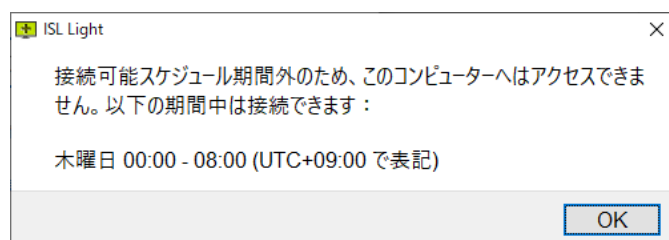
2-6=00:00-9:00

例 2：水曜日は 9 時 30 分から 12 時、土曜日は 13 時から 20 時までを許可する場合

4=00:30-03:00, 7=4:00-11:00

3. 画面下にある[Save]を選択して設定を保存します。

許可された時間外に接続しようとする、エラーメッセージが表示され接続できません。



3.16 常駐接続のインストーラーをカスタマイズするページへのアクセスを制御する

常駐接続のインストーラーをカスタマイズするページへのアクセス許可を制御することができます。（初期値：YES）

メニュー

[Configuration](#) > [ISL AlwaysOn](#) > [Allow access to Custom Deployment Link page](#):
Link page:

※特定のユーザー（ドメイン）に対して設定を有効にする場合は以下で設定を行います。

[User management]-[ユーザー名（ドメイン名）]-[ISL AlwaysOn]

1. [Configuration]-[ISL AlwaysOn] を選択します。
2. [Allow access to Custom Deployment Link page:]のチェックを外して[No]を選択します。
3. 右下にある[Save]を選択して変更を保存します。
4. オンラインページの常駐接続画面の[常駐接続をセットアップ]-[常駐接続のインストーラー作成]がグレーアウトして、アクセスできなくなります。



接続時間を制限する場合

Configuration > ISL AlwaysOn > Maximum session duration (time limit in seconds) :

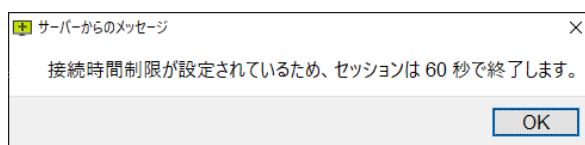
※特定のユーザー（ドメイン）に対して設定を有効にする場合は以下で設定を行います。

[User management]-[ユーザー名（ドメイン名）]-[ISL AlwaysOn]

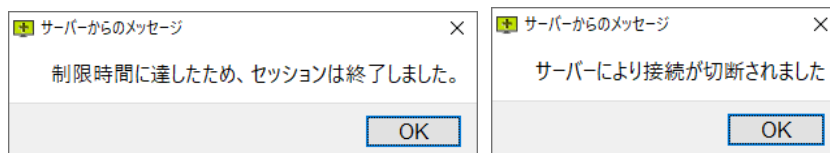
※ドメイン管理ダッシュボードでも設定が可能です

1. [Configuration]-[ISL AlwaysOn]を選択します。
2. [Maximum session duration (time limit in seconds):]のチェックを外し、接続を許可する時間（秒）を入力します。
3. 画面下にある[Save]を選択して設定を保存します。

設定されている時間の 60 秒前になると、メッセージが表示されます。



時間に達すると自動的にセッションが切断されます。



初期値では制限時間を迎えると自動的にセッションが切断されますが、切断せずに継続して接続できるようにすることも可能です。ただし一度切断すると新しいセッションは接続可能な時間帯を迎えるまで接続できません。

メニュー

Configuration > ISL AlwaysOn > End active sessions at the schedule end time:

※特定のユーザー（ドメイン）に対して設定を有効にする場合は以下で設定を行います。

[User management]-[ユーザー名（ドメイン名）]-[ISL AlwaysOn]

※ドメイン管理ダッシュボードでも設定が可能です

1. [Configuration]-[ISL AlwaysOn]を選択します。
2. [End active sessions at the schedule end time:] のチェックを外して[Yes]を選択します。
3. 画面下にある[Save]を選択して設定を保存します。

4 ISL Light の設定

4.1 ファイル転送（送信・受信）を禁止する

ISL Light 利用時のファイル転送（送信・受信）を禁止できます。

ファイルの「送信」

Configuration > ISL Light > Send Files

- Send Files (v1): (ISL Light Desk、ISL Light Client)
- Send Files (v2): (ISL Light)

ファイルの「受信」

Configuration > ISL Light > Receive Files

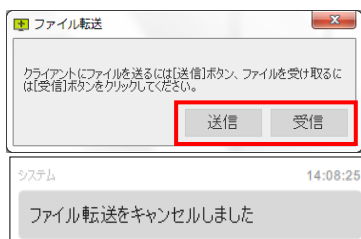
- Receive Files (v1): (ISL Light Desk、ISL Light Client)
- Receive Files (v2): (ISL Light)

※特定のユーザー（ドメイン）に対して設定を有効にする場合は以下で設定を行います。

[User management]-[ユーザー名（ドメイン名）]-[ISL Light]

※ドメイン管理ダッシュボードでも設定が可能です

1. [Configuration]-[ISL Light] を選択します。
2. ISL Light Desk、ISL Light Client に適用する場合は(v1)の付いた設定値を、ISL Light に適用する場合は(v2)の付いた設定値を選択します。
3. 禁止する項目のチェックを外し、「No(deny override または allow override)」を選択します。
※[No (allow override)] : ドメインごとの無効/有効の設定変更が可能です。
※[No (deny override)] : ドメインごとの無効/有効の設定変更が不可能です。
4. 右下にある[Save]を選択すると、設定した内容でファイル転送が禁止されます。



禁止した項目がグレーアウトして
選択できなくなります

ファイル転送を実行すると、転送がキャンセルされます。
チャット画面にメッセージが表示されます

➡ (補足)

ISL Light Desk、ISL Light Client、ISL Light は互換性がございましたが、組合せによりオペレーション結果が異なると管理が困難になるため、運用上 v1 および v2 の設定は同じ設定にしてご利用いただくよう推奨しております。

4.2 ファイルマネージャーの使用を禁止する

ISL Light 利用時のファイルマネージャーの使用を禁止できます。

メニュー

Configuration > ISL Light > File Manager

- File Manager (v1): (ISL Light Desk、ISL Light Client)
- File Manager (v2): (ISL Light)

※特定のユーザー（ドメイン）に対して設定を有効にする場合は以下で設定を行います。

[User management]-[ユーザー名（ドメイン名）]-[ISL Light]

※ドメイン管理ダッシュボードでも設定が可能です

1. [Configuration]-[ISL Light] を選択します。
2. ISL Light Desk、ISL Light Client に適用する場合は(v1)の付いた設定値を、ISL Light に適用する場合は(v2)の付いた設定値を選択します。
3. 禁止する項目のチェックを外し、「No(deny override または allow override)」を選択します。
※[No (allow override)] : ドメインごとの無効/有効の設定変更が可能です。
※[No (deny override)] : ドメインごとの無効/有効の設定変更が不可能です。
4. 左下にある[Save]を選択すると、ファイルマネージャーが使用できなくなります。

➡ (補足)

ISL Light Desk、ISL Light Client、ISL Light は互換性がございましたが、組合せによりオペレーション結果が異なると管理が困難になるため、運用上 v1 および v2 の設定は同じ設定にしてご利用いただくよう推奨しております。

4.3 デスクトップ共有（見る・見せる）を禁止する

ISL Light でデスクトップ共有を行う際の、見る・見せるの機能を禁止できます。

デスクトップを「見る」

Configuration > ISL Light > View Remote Desktop

- View Remote Desktop (v1): (ISL Light Desk、ISL Light Client)
- View Remote Desktop (v2): (ISL Light)

デスクトップを「見せる」

Configuration > ISL Light > Share My Screen

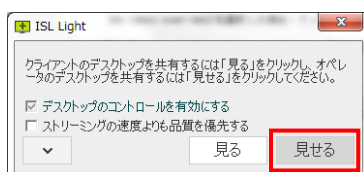
- Share My Screen (v1): (ISL Light Desk、ISL Light Client)
- Share My Screen (v2): (ISL Light)

※ 特定のユーザー（ドメイン）に対して設定を有効にする場合は以下で設定を行います。

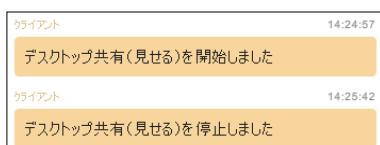
[User management]-[ユーザー名（ドメイン名）]-[ISL Light]

※ドメイン管理ダッシュボードでも設定が可能です

1. [Configuration]-[ISL Light] を選択します。
2. ISL Light Desk、ISL Light Client に適用する場合は(v1)の付いた設定値を、ISL Light に適用する場合は(v2)の付いた設定値を選択します。
3. 禁止する項目のチェックを外し、「No(deny override または allow override)」を選択します。
※[No (allow override)] : ドメインごとの無効/有効の設定変更が可能です。
※[No (deny override)] : ドメインごとの無効/有効の設定変更が不可能です。
4. 右下にある[Save]を選択して変更を保存します。
5. 設定した内容でデスクトップ共有が禁止されます。



禁止した項目はグレーアウトして
選択できなくなります



「見せる（見る）」を実行すると、アクションがキャンセルされます。
チャット画面上でメッセージが表示されます。

4.4 コントロール（オペレーター・クライアント）を禁止する

クライアントによるコントロールを禁止した状態でオペレーターの画面を見せる、またはオペレーターによるコントロールを禁止した状態でクライアントの画面を見ることができます。

オペレーターによるコントロール

Configuration > ISL Light > Control Remote Desktop

- Control Remote Desktop (v1): (ISL Light Desk、ISL Light Client)
- Control Remote Desktop (v2): (ISL Light)

クライアントによるコントロール

Configuration > ISL Light > Control My Screen

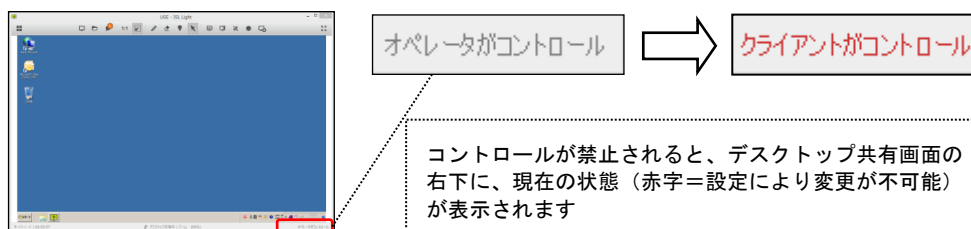
- Control My Screen (v1): (ISL Light Desk、ISL Light Client)
- Control My Screen (v2): (ISL Light)

※特定のユーザー（ドメイン）に対して設定を有効にする場合は以下で設定を行います。

[User management]-[ユーザー名（ドメイン名）]-[ISL Light]

※ドメイン管理ダッシュボードでも設定が可能です

1. [Configuration]-[ISL Light] を選択します。
2. ISL Light Desk、ISL Light Client に適用する場合は(v1)の付いた設定値を、ISL Light に適用する場合は(v2)の付いた設定値を選択します。
3. 禁止する項目のチェックを外し、「No(deny override または allow override)」を選択します。
※[No (allow override)] : ドメインやユーザーごとの無効/有効の設定変更が可能です。
※[No (deny override)] : ドメインやユーザーごとの無効/有効の設定変更が不可能です。
4. 右下にある[Save]を選択して変更を保存します。
5. 設定した内容でデスクトップ共有が禁止されます。



4.5 クリップボードの使用を禁止する

デスクトップ共有中、オペレーター端末とクライアント端末でのクリップボードの共有を禁止できます。

➡ (補足)

クリップボードにコピーできるテキストデータの上限は 1MB です。

メニュー

Configuration > ISL Light > Clipboard

- Clipboard (v1): (ISL Light Desk、ISL Light Client)
- Clipboard (v2): (ISL Light)

※ ドメイン管理ダッシュボードでも設定が可能です

1. [Configuration]-[ISL Light] を選択します。
2. ISL Light Desk、ISL Light Client に適用する場合は(v1)の付いた設定値を、ISL Light に適用する場合は(v2)の付いた設定値を選択します。
3. 禁止する項目のチェックを外し、「No(deny override または allow override)」を選択します。
※[No (allow override)] : ドメインやユーザーごとの無効/有効の設定変更が可能です。
※[No (deny override)] : ドメインやユーザーごとの無効/有効の設定変更が不可能です。
4. 右下にある[Save]を選択して変更を保存します。

4.6 ゲストオペレーターの招待を許可する

ISL Conference Proxy 4.4.2234.132 で追加されたゲストオペレーターの招待を無効にすることができます。(初期値 : YES)

メニュー

Configuration > ISL Light > Invite an Operator

– Skip login authentication (guest operator):

※ ドメイン管理ダッシュボードでも設定が可能です

1. [Configuration]-[ISL Light] を選択します。
2. 当該設定のチェックを外して、「No(deny override または allow override)」を選択します。
※[No (allow override)] : ドメインやユーザーごとの無効/有効の設定変更が可能です。
※[No (deny override)] : ドメインやユーザーごとの無効/有効の設定変更が不可能です。
3. 右下にある[Save]を選択して変更を保存します。

4.7 レコーディングを禁止する

デスクトップ共有中、オペレーターがクライアント端末へ接続中のセッション録画を禁止できます。

➡ (補足)

この設定はオペレーターがクライアントの画面を[見る]の操作をした時のみ有効です。

メニュー

Configuration > ISL Light > Recording

- Allow operator to record sessions:

※ ドメイン管理ダッシュボードでも設定が可能です

1. [Configuration]-[ISL Light] を選択します。
2. 当該設定のチェックを外して、「No(deny override または allow override)」を選択します。

※本設定は ISL Light 向けの設定です。

※[No (allow override)] : ドメインやユーザーごとの無効/有効の設定変更が可能です。

※[No (deny override)] : ドメインやユーザーごとの無効/有効の設定変更が不可能です。

3. 右下にある[Save]を選択して変更を保存します。

4.8 各種プラグインの使用を制限する

Windows 版の ISL Light Desk と ISL Light Client に対してのみ、各種機能のプラグインを制御できます。使用を禁止したプラグインに関連する機能は利用できなくなります。

Desktop プラグインと File_transfer プラグインの制御に関しては、他のオプションの使用を推奨しています。デスクトップ共有の制限を行うには「4.3 デスクトップ共有（見る・見せる）を禁止する」を、ファイル転送の制御を行うには「4.1 ファイル転送（送信・受信）を禁止する」をご参照ください。

メニュー

Configuration > ISL Light

- Desktop plugin: (デスクトップ共有)
- File transfer plugin: (ファイル転送)
- Video plugin: (ビデオ)
- Audio plugin: (音声)
- Printing plugin: (遠隔プリント)
- Recording plugin: (レコーディング)

※ドメイン管理ダッシュボードでも設定が可能です

1. [Configuration]-[ISL Light] を選択します。
2. 使用を禁止したいプラグインのチェックを外し、「No(deny override または allow override)」を選択します。
 - ※[No (allow override)] : ドメインやユーザーごとの無効/有効の設定変更が可能です。
 - ※[No (deny override)] : ドメインやユーザーごとの無効/有効の設定変更が不可能です。
3. 右下にある[Save]を選択して変更を保存します。

4.9 代替接続（RDP 接続）利用時の操作を制限する

代替接続（RDP 接続）利用時のオプションを定義した RDP ファイルをサーバー上にアップロードすることで、代替接続中の操作を制限できます。

➡（補足）

RDP ファイルのサンプルは、以下の URL よりダウンロードいただけます。

https://www.oceanbridge.jp/isl/customize/rdp_default.zip

メニュー

Advanced > Customize > Desk custom command line:

Advanced > Customize > ISL Light custom images (ZIP):

1. RDP 接続中に操作可能な項目を定義したファイル（.rdp）を作成します。
2. 作成した RDP ファイルを圧縮して ZIP ファイル化します。
3. [Advanced]-[Customize]を選択します。
4. [Show expert settings]にチェックします。
5. [Create new customization]を選択し、[Customization name]に任意の名前を入力します。
（既にカスタマイズを作成していた場合はカスタマイズ名を選択します）

6. [ISL Light custom command line:]に以下を入力します。
--on-connect "port_forward?rdp_connect_file=%7BINST%7D/conf_static/images/rdp_default.rdp
7. [ISL Light custom images (ZIP):]の「upload..」を選択します。
[ファイルを選択]を選択して、作成した ZIP ファイルを選択します。

8. 画面下にある[Save]を選択して変更を保存します。

※上記のファイル名（rdp_default.rdp）は一例です。設定の際は、お手持ちの RDP ファイルの名称に変更してください。

4.10 レコーディングファイルを自動保存する

ワンタイム接続および常駐接続の全セッションを自動的に録画（レコーディング）し、レコーディングファイル（.isr）をサーバー内またはネットワークストレージに保存できます。

➡（注意）

自動保存を有効にすると以下の制限事項がございます。

- ・ Mac 端末で ISL Light Desk（Mac 版）が起動できなくなります。
- ・ ISL Light iOS および ISL Light Android から接続を開始できません。

メニュー

Storage > Areas

Configuration > ISL Light > Recording session template:

1. [Storage]-[Areas]を選択します。
2. [Create new storage area]を選択して、ストレージの Name と Path を設定します。

Name	任意のストレージ名を入力します。
Server	ファイルを保存するサーバーを選択します。複数サーバーで GRID を構成している場合などの特殊なケースを除き、初期値の設定「all」のままご利用ください。
Type	filesystem：サーバー上のファイルシステムに保存します。（初期値） windows network drive：ネットワークストレージ上に保存します（選択して表示される Username、Password にネットワークストレージにアクセスできる Windows 資格情報を入力します）。
Path	保存先のパスを入力します。 （例）サーバーの C ドライブ直下「ISL_recording」に保存する場合： C:\ISL_recording ※保存先（Path）に指定するフォルダーは、ISL Conference Proxy のサービスを起動している「.¥islcp」のアカウントでフルコントロールのアクセス許可が必要です。 （例）ネットワークストレージ「ns1」の「ISL_recording」に保存する場合： ¥¥ns1¥ISL_recording

3. 右下にある[Save]を選択して変更を保存します。
4. 続けて、[Configuration]-[ISL Light]を選択します。
5. 「Recording session template」のチェックを外し、以下の文字列を入力します。
storage:// <ストレージの Name>/<任意のファイル名>. isr
例：ストレージの Name を「ocean」に設定し、「test.isr」のファイル名で保存する場合
storage://ocean/test.isr

※レコーディングファイル (.isr) は、「test.isr」⇒「test.0.isr」⇒「test.1.isr」⇒「test.2.isr」...の形で保存されます。

6. 右下にある[Save]を選択して変更を保存します。
7. ISL Light で接続を行います。
8. セッションを終了すると、ストレージの Path にファイルが自動で保存されます。
例：ストレージの Path を「C:¥ISL_recording」、任意のファイル名を「test」に設定した場合、C:¥ISL_recording 内に「test.isr」の名前でファイルが保存されます。

➡ (補足)

ファイル名には、セッション情報を付与することができます。必要に応じ、以下のパラメーターを追加してください。

{{timestamp}}	ファイル作成時のタイムスタンプ (UTC+9 時間)
{{user}}	オペレーター名 ※オペレーター名に半角英数字以外が含まれている場合、正しく反映されません。
{{session_code}}	セッションコード

例：storage://ocean/isl_{{timestamp}}-{{user}}-{{session_code}}.isr

2018 年 1 月 16 日にユーザー「test (ドメイン所属なし)」で接続 (セッションコード: 74762685) を行うと、指定したパスに「isl_20180116T032830Z-__default_test-74762685.isr」の名前でファイルが作成されます。

例：storage://ocean/{{user}}/isl_{{timestamp}}-{{session_code}}.isr

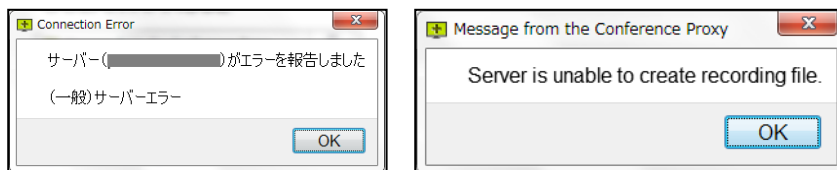
2018 年 1 月 16 日にユーザー「test (ドメイン所属なし)」で接続 (セッションコード: 74762685) を行うと、指定したパス内に「__default_test」という名前のディレクトリを作成し、「isl_20180116T032830Z-74762685.isr」の名前でファイルが作成されます。

※ファイル名の指定にスラッシュ (/) を入れると、ディレクトリを作成できます。

※保存された .isr ファイルは、ISL Player で再生できます。

※ストレージの Path で指定したフォルダーが存在しない、あるいは指定したフォルダーに対してアクセス権が不足している場合など、レコーディングファイルが指定先に正常に作成

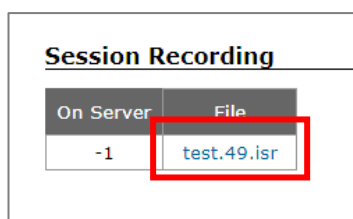
(保存) できない場合は以下のエラーメッセージが表示されます。



➡ (補足)

指定したストレージの Path に保存されたレコーディングファイルは、管理者ページからもダウンロードが可能です。利用履歴の詳細な確認方法は「7.2 セッションの利用履歴を確認する」をご参照ください。

1. [Activity Monitor]-[Sessions]-[History] を選択します。
2. [ISL Light] を選択します。
3. 確認したいセッション ID を選択します。
4. セッションの情報が表示され、下部の[Session Recording]に記載されている.isr ファイルのリンクを選択すると、レコーディングファイルをダウンロードできます。



4.11 不要なセッションを自動削除する

接続不良などによって中断され、オペレーターもしくはクライアントの片方のみしか存在しなくなったセッションを、指定時間経過後に自動で削除します。不要なセッションが残り続けることによるライセンスの占領などの心配がなくなります。

メニュー

Configuration > ISL Light >

Close session after the session has been half-connected for (1d 2h 3m 4s):

1. [Configuration]-[ISL Light] を選択します。
2. 当該設定のチェックを外して[Yes]に変更します。
3. 画面下の[save]を選択して設定を保存します。

4.12 ログ画像を変更する

カスタマイズを作成することで、ISL Light Desk&Client、ISL Light のロゴ画像を変更できます。

ISL Light Desk、ISL Light Client の場合

Advanced > Customize > Logo image (BMP) :

1. [Advanced]-[Customize] を選択します。
2. [Create new customization] を選択し、[Customization name] に任意の名前を入力します。
(既にカスタマイズを作成していた場合はカスタマイズ名を選択します)

Edit customization

☐ Show expert settings

Customization name: カスタマイズA

Use customization by default: ☒ enabled

ISL Groop Customizations:

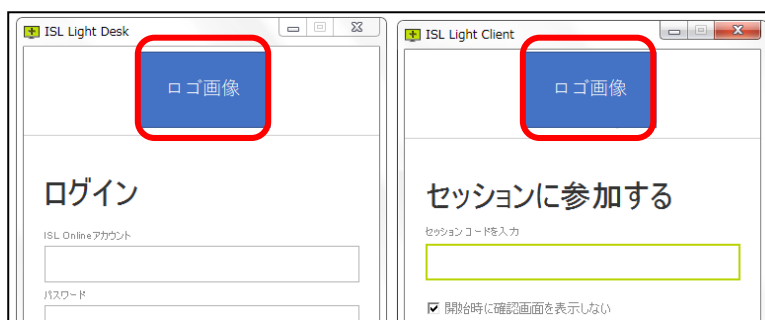
ISL Groop Program Icon (PNG): ☒ use [ecalic023_004.png] upload...

すべてのユーザー（ドメイン）に適用する場合は [Use customization by default] の [enabled] にチェックを入れます。

3. [Logo image (BMP)] の [upload...] を選択します。

Logo image (BMP): upload...

4. [参照] を選択して、ロゴに使用する画像を選択します。
※ 360×80 ピクセル以内のビットマップ(. bmp) 形式に限られます。それ以上のサイズは自動で縮小して表示されます。
5. 画面下の [Save] を選択して、変更を保存します。
6. ISL Light Desk&Client メインメニューのロゴがアップロードの画像に変更されます。



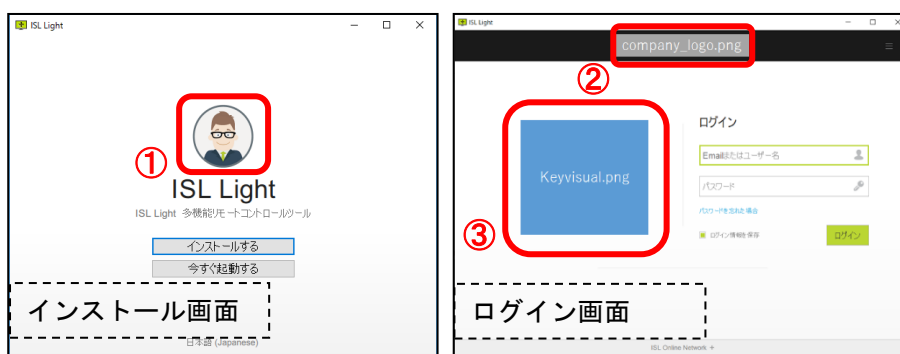
ISL Light の場合

Advanced > Customize > Show expert settings > ISL Light custom images (ZIP):

1. 変更する 3 つの画像を用意します（ファイル名および拡張子は変更しないでください）。

- ① app_icon.png（192x192 ピクセル）
- ② company_logo.png（98x22 ピクセル推奨）
- ③ keyvisual.png（412x412 ピクセル）

※画像サイズが推奨値よりも大きい場合、自動で縮小して表示されます

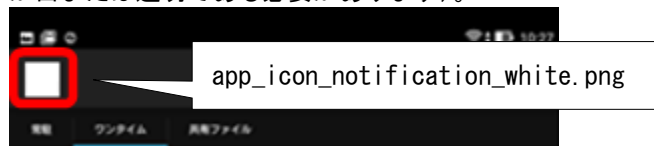


➡（参考）カスタマイズのサンプル ZIP

以下でカスタマイズの（画像）サンプルファイルを公開中です。よろしければダウンロードして解凍後、画像を上書き/編集するなどしてご利用ください。

https://www.oceanbridge.jp/isl/customize/light_customize.zip

※サンプルには上記でご案内した 3 つの画像以外に、app_icon_notification_white.png という名前の画像が含まれます。こちらの画像はモバイル用 ISL Light（iOS 版、Android 版）のカスタマイズでご利用いただけます（「app_icon_notification_white.png」は背景が白または透明である必要があります）。



2. 3 つの画像をまとめて zip 形式で圧縮し、「light_customize.zip」の名前で保存します
3. 管理画面ページの左メニューから [Advanced] - [Customize] を選択します。

4. [Create new customization]を選択し、[Customization name]に任意の名前を入力します。
(既にカスタマイズを作成していた場合はカスタマイズ名を選択します)

Edit customization

☒ Show expert settings

Customization name: カスタマイズA

Use customization by default: ☒ enabled

ISL Group Customizations:

すべてのユーザー（ドメイン）に適用する場合は [Use customization by default] の [enabled] にチェックを入れます。

5. 画面上部の[Show expert settings]にチェックを入れます。
6. [ISL Light custom images (ZIP):]の「upload..」を選択します。
[ファイルを選択]を選択して、作成した「light_customize.zip」を選択します。

ISL Light custom images (ZIP):

☒ use [light_customize.zip]

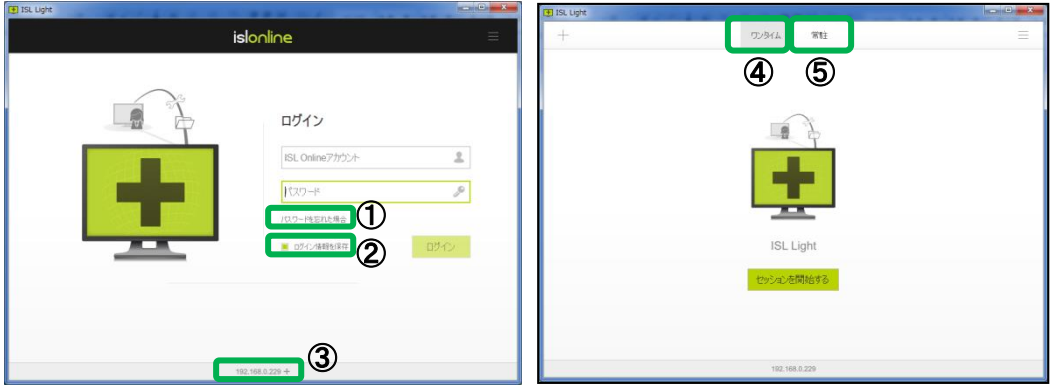
upload...

ファイルを選択 light_customize.zip

7. 画面下の[Save]を選択して、変更を保存します。
8. ISL Light の3つの画像が変更されます（既に ISL Light をインストールしている場合は改めてプログラムを取得し、インストールを行ってください）。

4.13 UI上の項目を非表示にする

ISL Light 上の項目を、非表示にすることができます。



- 1. 管理画面ページの左メニューから [Advanced]-[Customize] を選択します。
- 2. [Create new customization] を選択し、[Customization name] に任意のカスタマイズ名を入力します。すべてのユーザー（ドメイン）に適用する場合は [Use customization by default] の [enabled] にチェックを入れます。
- 3. [ISL Light custom command line:] に、非表示にする項目の情報を入力します。

ISL Light custom command line:

--on-load "main?disable_sessions=true"

①	パスワードを忘れた場合	--on-load "main?disable_forgot_password=true"
②	ログイン情報を保存	--on-load "customization?disable_remember_me_in_login=true"
③	サーバー	--on-load "main?disable_grid_selector=true"
④	ワンタイム接続	--on-load "customization?disable_sessions=true"
⑤	常駐	--on-load "customization?disable_computers=true"

※⑤は [常駐] タブに加え、左上 [+] メニューより [このコンピューターを追加する]、[アクセス許可を Email で依頼]、[グループを作成] も非表示になります。

※複数の項目をまとめて設定することもできます。

例：①②③⑤を非表示にする場合

--on-load "main?disable_forgot_password=true&disable_grid_selector=true" --on-load "customization?disable_remember_me_in_login=true&disable_computers=true"

例：①②③④を非表示にする場合

--on-load "main?disable_forgot_password=true&disable_grid_selector=true" --on-load "customization?disable_remember_me_in_login=true&disable_sessions=true"

- 4. 画面下の [Save] を選択して、変更を保存します。

- ISL Light の画面上で、選択した項目が非表示になります。

既に ISL Light をインストールしている場合は改めてインストールを行ってください。

➡ (補足)

現在適用中のカスタマイズの内容は、ISL Light の[設定]-[カスタマイズ]で確認が可能です。

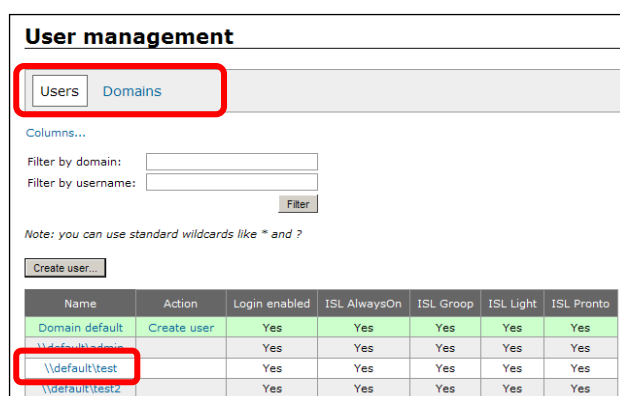
なお、ISL Light 上で設定を変更することはできません。



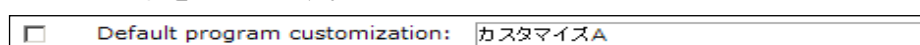
➡ (参考)

カスタマイズを特定のユーザー（ドメイン）に対して適用する手順は、以下をご参照ください。

- [User management]を選択し、[Users]（または[Domains]）を選択します。
- カスタマイズを適用するユーザー（ドメイン）名を選択します。



- [General]-[Default program customization]のチェックを外し、空白欄に適用したいカスタマイズ名を入力します。

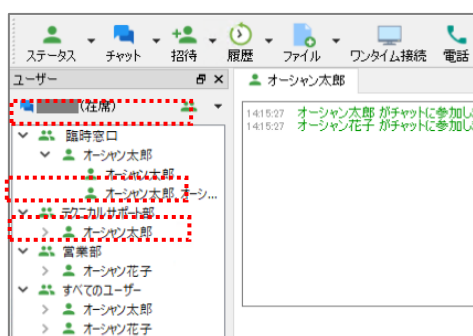


- 右下にある[Save]を選択して、変更を保存します。

5 ISL Pronto の設定

5.1 オペレーターをグループに登録する

オペレーターをグループに登録することができます。グループ登録を行うと、グループ内の全ユーザーとのチャットの開始や、グループ内の他のユーザーにチャットを転送することができます。また、クライアントからグループを指定してチャットリクエストを受けることもできます。グループの中で対応可能なオペレーターがクライアントの対応を行います。



メニュー

User management> ユーザー名 > ISL Pronto > Filter membership:

1. [User managemen]-[ユーザー名]-[ISL Pronto]を選択します。
2. [Filter membership:]にグループ名を入力します。複数登録する場合はカンマ区切りで入力します。

Filter membership:	テクニカルサポート部, 臨時窓口
--------------------	------------------

3. 画面下の[Save]を選択して設定を保存します。

5.2 クライアントが入力中の文字を ISL Pronto に表示しない

クライアントがチャット画面に入力中の内容を、ISL Pronto に表示しないようにすることができます。

メニュー

Configuration > ISL Pronto > See client's text as they type:

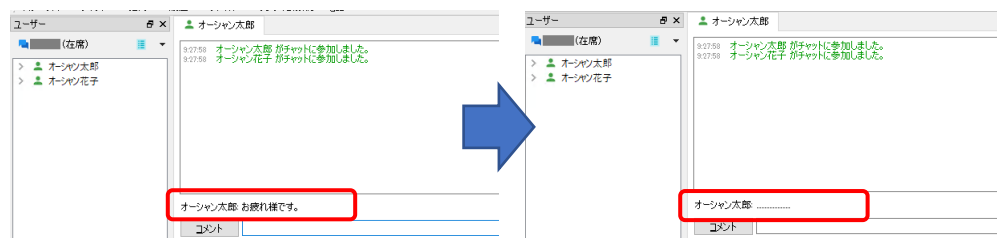
※特定のユーザー（ドメイン）に対して設定を有効にする場合は以下で設定を行います。

[User management]-[ユーザー名（ドメイン名）]-[ISL Pronto]

1. [Configuration]-[ISL Pronto]を選択します。
2. [See client's text as they type:]のチェックを外して [No(deny override または allow override)]に変更します。
3. 画面下の[Save]を選択して設定を保存します。

5.3 オペレーターが入力中の文章を非表示にする

オペレーター同士のチャットの際に、相手のオペレーターが入力中の内容を非表示にできます。



メニュー

Configuration > ISL Pronto > See supporter's text as they type:

※特定のユーザー（ドメイン）に対して設定を有効にする場合は以下で設定を行います。

[User management]-[ユーザー名（ドメイン名）]-[ISL Pronto]

1. [Configuration]-[ISL Pronto]を選択します。
2. [See supporter's text as they type:]のチェックを外して [No(deny override または allow override)]に変更します。
3. 画面下の[Save]を選択して設定を保存します。

5.4 ステータスを自動的に「離席」にする

クライアントとのチャットで進行中の数が設定値に達した時にオペレーターのステータスを自動的に「離席」に切り替えます。チャットを閉じるか終了して、進行中のチャット数が設定値を下回ると再び「在席」になります。

メニュー

Configuration > ISL Pronto > Maximum number of chats:

※特定のユーザー（ドメイン）に対して設定を有効にする場合は以下で設定を行います。

[User management]-[ユーザー名（ドメイン名）]-[ISL Pronto]

1. [Configuration]-[ISL Pronto]を選択します。
2. [Maximum number of chats:]のチェックを外して、開けるチャットの最大数を入力します。
3. 画面下の[Save]を選択して設定を保存します。

5.5 クライアントからのチャットを自動でオペレーターに割り当てる

クライアントからチャットリクエストを受信時に、自動でオペレーターを割り当ててチャットを開始することができます。ステータスが「在席」のオペレーターが割り当ての対象です。

➡ (補足)

クライアントからチャットリクエストを受けた時点で対応可能なオペレーターが不在の場合には、途中でステータスが「在席」に変わったオペレーターがいても割り当ては行われません。オペレーターはクライアント欄からリクエストを選択する必要があります。

メニュー

Configuration > ISL Pronto > Open chat with client automatically:

※特定のドメインに対して設定を有効にする場合は以下で設定を行います。

[User management]-[ドメイン名]-[ISL Pronto]

1. [Configuration]-[ISL Pronto]を選択します。
2. [Open chat with client automatically:]のチェックを外して、[Yes]を選択します。
3. 画面下の[Save]を選択して設定を保存します。

➡ (参考)

初期設定ではオペレーターはランダムに割り当てられます。対応数・対応時間の少ないオペレーターから順に割り当てたい場合は以下を設定します。

メニュー

Configuration > ISL Pronto > Client assignment scheme:

※特定のドメインに対して設定を有効にする場合は以下で設定を行います。

[User management]-[ドメイン名]-[ISL Pronto]

1. [Configuration]-[ISL Pronto]を選択します。
2. [Client assignment scheme:]のチェックを外して、[Ring All]または[Least Busy]を選択します。
 - ・ Ring All : ユーザーをランダムに割り当てます。
 - ・ Least Busy : チャット数およびチャットの対応時間の少ないユーザーから順に割り当てます。
3. 画面下の[Save]を選択して設定を保存します。

5.6 ワンタイム接続時に毎回 ISL Light をインストールする

ISL Pronto からワンタイム接続を行う際に利用するリモート接続用プログラム ISL Light を毎回インストールして使用する場合に設定します。初期設定では、端末にすでにインストールされている ISL Light を使用します。

メニュー

Configuration > ISL Pronto > Use installed ISL Light for remote desktop:

※特定のユーザー（ドメイン）に対して設定を有効にする場合は以下で設定を行います。

[User management]-[ユーザー名（ドメイン名）]-[ISL Pronto]

1. [Configuration]-[ISL Pronto]を選択します。
2. [Use installed ISL Light for remote desktop:]のチェックを外して [0]に変更します。
3. 画面下の[Save]を選択して設定を保存します。

5.7 ISL Light のチャット内容を ISL Pronto に転送しない

ISL Pronto からワンタイム接続を行うと、初期設定では ISL Light でやりとりしたチャット内容が ISL Pronto にも転送されます。ISL Light のチャット内容を転送しない場合には、以下の設定を行います。

メニュー

Configuration > ISL Pronto > Show ISL Light chat messages:

※特定のドメインに対して設定を有効にする場合は以下で設定を行います。

[User management]-[ドメイン名]-[ISL Pronto]

1. [Configuration]-[ISL Pronto]を選択します。
2. [Show ISL Light chat messages:]のチェックを外して [No]に変更します。
3. 画面下の[Save]を選択して設定を保存します。

5.8 定型文の編集を禁止する

ISL Pronto の定型文を編集および削除できるユーザーを制限することができます。

メニュー

Configuration > ISL Pronto > Edit canned responses:

※特定のユーザー（ドメイン）に対して設定を有効にする場合は以下で設定を行います。

[User management]-[ユーザー名（ドメイン名）]-[ISL Pronto]

1. [Configuration]-[ISL Pronto] を選択します。
2. [Edit canned responses:] のチェックを外して [No(deny override または allow override)]に変更します。
3. 画面下の[Save]を選択して設定を保存します。

5.9 ファイル転送（送信・受信）を禁止する

ISL Pronto 利用時のファイル転送（送信・受信）を禁止できます。

ファイルの「送信」

Configuration > ISL Pronto > Send files in chat:

ファイルの「受信」

Configuration > ISL Pronto > Receive files in chat:

※特定のユーザー（ドメイン）に対して設定を有効にする場合は以下で設定を行います。

[User management]-[ユーザー名（ドメイン名）]-[ISL Pronto]

1. [Configuration]-[ISL Pronto] を選択します。
2. ファイルの送信を禁止する場合は[Send files in chat:]を、受信を禁止する場合は[Receive files in chat:]のチェックを外して、[No(deny override または allow override)]に変更します。
3. 画面下の[Save]を選択して設定を保存します。

5.10 チャットの呼び出し元を制限する

チャット画面の呼び出し元サイトの URL を制限することができます。この設定値に該当しないサイトからチャット画面を開こうとするとエラーが表示され、チャット機能はご利用いただけません。

メニュー

Configuration > ISL Pronto > Limit referer regex:

※特定のドメインに対して設定を有効にする場合は以下で設定を行います。

[User management]-[ドメイン名]-[ISL Pronto]

1. [Configuration]-[ISL Pronto] を選択します。
2. [Limit referer regex:]のチェックを外して、チャットの呼び出しを許可する URL を入力します。正規表現で指定することもできます。
3. 画面下の[Save]を選択して設定を保存します。

5.11 チャット履歴の最大検索数を制限する

チャット履歴検索の最大取得件数を変更できます。検索条件で期間を指定しても、取得件数がこの設定値を超える場合には、正しく検索が行えない場合があります。初期値では 1000 が設定されています。

メニュー

Configuration > ISL Pronto > Chat history size limit:

※特定のユーザー（ドメイン）に対して設定を有効にする場合は以下で設定を行います。

[User management]-[ユーザー名（ドメイン名）]-[ISL Pronto]

1. [Configuration]-[ISL Pronto] を選択します。
2. [Chat history size limit:]のチェックを外して、取得可能な最大件数を入力します。
3. 画面下の[Save]を選択して設定を保存します。

5.12 チャット履歴で検索できる範囲（日数）を制限する

チャット履歴検索の検索範囲を変更できます。検索条件で指定した期間がこの設定値の範囲外に及ぶ場合、正しく検索が行えない場合があります。初期値では 31 日間に設定されています。

メニュー

Configuration > ISL Pronto > Maximum chat query range (in days):

※特定のドメインに対して設定を有効にする場合は以下で設定を行います。

[User management]-[ドメイン名]-[ISL Pronto]

1. [Configuration]-[ISL Pronto] を選択します。
2. [Maximum chat query range (in days):]のチェックを外して、検索対象にする最大日数を
入力します。
3. 画面下の[Save]を選択して設定を保存します。
- 4.

5.13 チャット履歴検索でタイムアウトする時間を設定する

チャット履歴検索のタイムアウト時間を変更できます。初期値では 10000 ミリ秒（10 秒）に設定されています。

メニュー

Configuration > ISL Pronto > Execution timeout for chat history query (in ms):

※特定のユーザー（ドメイン）に対して設定を有効にする場合は以下で設定を行います。

[User management]-[ユーザー名（ドメイン名）]-[ISL Pronto]

1. [Configuration]-[ISL Pronto] を選択します。
2. [Execution timeout for chat history query (in ms):]のチェックを外して、タイムア
ウトする時間を入力します。
3. 画面下の[Save]を選択して設定を保存します。

5.14 チャット画面のWEBサイトの埋め込み方・利用方法

自社で構築したWEBサイトなどからチャット画面を起動するサンプルソースをご紹介します。
実装方法は2通りあります。※グレー枠内の太字は実行環境にあった内容に変更が必要です。

1) 既定の Javascript を用いて起動する

【利用方法】

- ① 以下のコードを ISL Pronto チャットボタンを配置する場所に記載します。

```
<a id="islpronto_link"
href="mailto:YOUR_OFFLINE_EMAIL_ADDRESS@YOUR_DOMAIN.com"> </a>
```

- ② ページの下部、</ body>の直前に配置します。

```
<script type="text/javascript"
src="http://pronto.isl.example.com/live/islpronto/public/chat
js?d=default&lang=ja"></script>
```

※href: このサンプルでは対応可能なオペレーターが不在の場合、ご利用中のメールアプリのメール作成画面を起動します。他の画面に遷移させたい場合は遷移先の URL を記載します。

※mailto: 対応可能なオペレーターが不在の場合、チャット画面は起動せずメール作成画面が起動します。その際ここに記載したメールアドレスが自動的に宛先に設定されます。

※src: ISL Pronto が接続する ISL Conference Proxy の IP アドレスまたはドメイン名を記載します。

※d: 対応オペレーターに登録されているドメイン名を指定します。初期設定から変更していない場合は「default」を指定します。詳細は「1.5 ユーザー（ドメイン）を作成する」をご参照ください。

※②は必ず①より下に記載してください。チャットの呼び出しよりも前に記載するとうまく動作しないことがあります。

2) クリックイベントを作成して URL を実行する

1) で使用する chat.js または chat_info.js をロードせずに、onclick 時に呼び出す関数を作成し、チャットを開始することができます。

```
<script type="text/javascript">
function startISLPronto() {
    var link = 'http://islpronto.isl.example.com/live/islpronto?';
    link += 'mobile=0';
    link += '&lang=ja';
    link += '&template=dn:default';
    link += '&referrer=' + escape(document.referrer ? document.referrer :
    '');
    link += '&location=' + escape(window.location ? window.location : '');
    var opts = 'status=no,toolbar=no,menubar=no,resizable=yes,location=no';
    opts += ',width=500';
    opts += ',height=330';
    window.open(link, '_islpronto_chat_' +
    Math.floor(Math.random()*10000000), opts);
}
</script>
```

※この関数を呼び出す処理は別途記述が必要です。<a>や<button>のイベントから呼び出すようにします。

※3 行目の太字は、ISL Pronto が接続している ISL Conference Proxy の IP アドレスまたはドメイン名を記載します。

※6 行目の template 太字は対応オペレーターに登録されているドメイン名を指定します。初期設定は default が設定されているため、変更していない場合は上記のソースから変更せずにご利用いただけます。

5.15 チャット画面をカスタマイズする

チャット画面のロゴ画像、背景色および画面タイトルを変更することができます。



①画面タイトルの変更

[Configuration](#) > [ISL Pronto](#) > [Chat window title](#):

②ロゴの変更

[Configuration](#) > [ISL Pronto](#) > [Link to logo image](#):

③背景色の変更

[Configuration](#) > [ISL Pronto](#) > [Chat background](#):

※特定のドメインに対して設定を有効にする場合は以下で設定を行います。

[User management]-[ドメイン名]-[ISL Pronto]

※カスタマイズを登録して有効にする場合は以下で設定を行います。

[Advanced]-[Customize]

1. [Configuration]-[ISL Pronto] を選択します。
2. 当該設定のチェックを外して、表示する画面タイトルの文言、背景色をカラーコードで入力します。ロゴ画像を変更する場合は表示する画像を表示する URL を入力します。
3. 画面下の [Save] を選択して設定を保存します。

5.16 チャット終了後にクライアント側に既定のサイトを表示する

チャットを終了後にクライアント側に表示させたいサイトを設定します。

➡ (補足)

- ・ 本設定で指定したサイトは新たなブラウザ内ではなく、チャット画面から遷移し表示します。そのため、クライアントがチャット画面ではなくブラウザを閉じて終了した場合は、指定した画面は表示されません。

メニュー

Configuration > ISL Pronto > Open link when client closes chat:

※特定のドメインに対して設定を有効にする場合は以下で設定を行います。

[User management]-[ドメイン名]-[ISL Pronto]

※カスタマイズを登録して有効にするには以下の設定を行います。

[Advanced]-[Customize]

1. [Configuration]-[ISL Pronto] を選択します。
2. [Open link when client closes chat:]のチェックを外して、表示する URL を入力します。
3. 画面下の[Save]を選択して設定を保存します。

5.17 チャット終了時にチャットの内容をメールアドレス宛に送る

クライアントとのチャットを閉じた時に、指定したメールアドレス宛にチャット内容を送ることができます。オペレーター同士のチャットは送信されません。



メニュー

Configuration > ISL Pronto > Chat finished transcript e-mail:

※特定のドメインに対して設定を有効にする場合は以下で設定を行います。

[User management]-[ドメイン名]-[ISL Pronto]

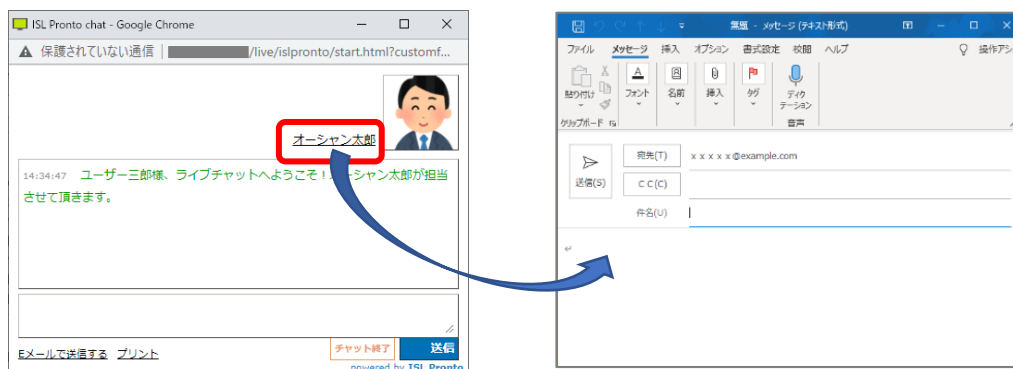
※カスタマイズを登録して有効にするには以下の設定を行います。

[Advanced]-[Customize]

1. [Configuration]-[ISL Pronto] を選択します。
2. [Chat finished transcript e-mail:]のチェックを外して 送り先のメールアドレスを入力します。
3. 画面下の[Save]を選択して設定を保存します。

5.18 チャット画面からオペレーター宛にメールを送れないようにする

オペレーターが Email アドレスを設定している場合、チャット画面および ISL Pronto に表示される名前にリンクが設定されています。そのリンクを選択すると規定のメーラーが起動し、メール作成画面が表示されます。名前にリンクを設定しない場合には、以下の設定を行います。



メニュー

Configuration > ISL Pronto > Show e-mail to clients:

※特定のユーザー（ドメイン）に対して設定を有効にする場合は以下で設定を行います。

[User management]-[ユーザー名（ドメイン名）]-[ISL Pronto]

1. [Configuration]-[ISL Pronto] を選択します。
2. [Show e-mail to clients:]のチェックを外して、[No]を選択します。
3. 画面下の[Save]を選択して設定を保存します。

5.19 メッセージを変更する

カスタマイズを作成することで、ISL Pronto やチャット画面内のメッセージを変更することができます。本設定は、すべてのユーザーまたはドメインごとに適用することができます。

メニュー

Advanced > Customize > Custom messages:

1. [Advanced]-[Customize] を選択します。
2. [Create new customization] を選択し、[Customization name] に任意の名前を入力します。
(既にカスタマイズを作成していた場合はカスタマイズ名を選択します)

Edit customization

☐ Show expert settings

Customization name: カスタマイズA

Use customization by default: ☒ enabled

ISL Group Customizations:

3. [Custom messages] の [Click here...] を選択します。

Custom messages: [Click here...](#)

4. [Language] で [ja (日本語)] を選択します。
5. システムに登録されている日本語メッセージの下に、カスタマイズで表示したいメッセージを入力します。

ISL Pronto custom messages

Language: ja (日本語)

Add custom language: Add

Messages

Context	Message / Customization
chat message	[[client]]様、ライブチャットへようこそ！[[supporter]]が担当させていただきます。
chat message	[[client]]様、お疲れ様です。[[supporter]]が担当いたします。どうなさいましたか？
chat message	The live chat has ended. Thank you for visiting us.

6. 画面下の [Save] を選択して、変更を保存します。
7. [User management]-[ドメイン名]-[General] を選択します。
8. [Default program customization:] に 2. で登録したカスタマイズ名を入力します。
9. 画面下の [Save] を選択して、変更を保存します。

5.20 チャット タイマーの表示を制御する

WEB クライアントとチャット時、ISL Pronto 上にタイマーを表示し、サポートにかかった時間を計測することができます。クライアントまたはオペレーター側のいずれかからチャットを終了するとタイマーが自動で止まります。(初期値 : No)

メニュー

Configuration > ISL Pronto > Show duration timer in support chat:

※特定のドメインに対して設定を有効にする場合は以下で設定を行います。

[User management]-[ユーザー名 (ドメイン名)]-[ISL Pronto]

1. [Configuration]-[ISL Pronto]を選択します。
2. [Show duration timer in support chat:]のチェックを外して、[Yes]を選択します。
3. 画面下の[Save]を選択して設定を保存します。

10.

6 セキュリティに関する設定

6.1 パスワードを変更する

ISL Online アカウントへのログインに使用するパスワードを変更します。

メニュー

User management > User > General > Password:

1. [User management]を選択します。
2. パスワードを変更するユーザーを選択します。
3. [General]の画面が開きます。[Password:]欄の[change]を選択します。

Default	Setting	Value
	Domain:	default
	Username:	test
	Full name:	
	E-Mail:	
	Nickname:	
	Password:	[*****] change
☒	Login enabled:	Yes

4. [Password]および[Password again]の両方に、変更後のパスワードを入力します。
5. [Change]を選択して設定を保存します。

Change password	
Password:	
Password again:	
	Change

➡ (補足)「パスワードを忘れた場合」について

パスワードを忘れた場合、オンラインページでユーザー側からもパスワードを変更できます。ユーザー側でパスワードの変更を行うには、以下の設定が必要です。

【1】メールサーバーの設定 (参照)

【2】[User management]でユーザーに固有の Email アドレスが登録されている必要があります

User \\default\\test		
General Security Programs Plugins Actions GUI Features ISL AlwaysOn ISL Group		
Login as user...		
Default	Setting	Value
	Domain:	default
	Username:	test
	Full name:	
	E-Mail:	user1@example.com x
	Nickname:	
	Password:	[*****] change
☒	Login enabled:	Yes

■ユーザー側からパスワードを変更する手順

1. オンラインページにアクセスし、画面右上の[ログイン]を選択します。
2. [パスワードを忘れた場合]を選択します。



ログイン

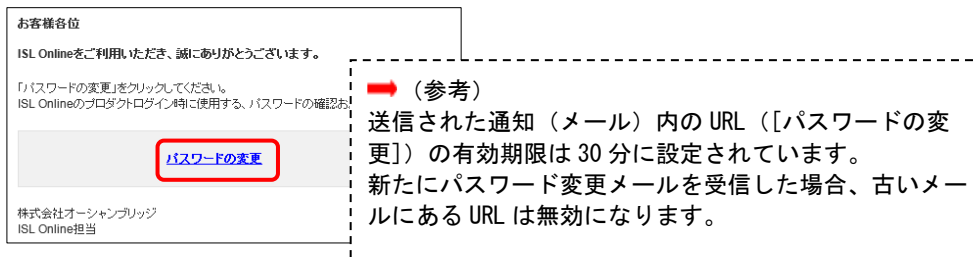
Emailまたはユーザー名

パスワード

パスワードを忘れた場合

ログイン

3. ユーザーに登録している Email を入力して、[送信]を選択します。
4. 入力した Email に通知が届きます。[パスワードの変更]を選択します。



お客様各位

ISL Onlineをご利用いただき、誠にありがとうございます。

「パスワードの変更」をクリックしてください。
ISL Onlineのプロダクトログイン時に使用する、パスワードの確認お

パスワードの変更

株式会社オーシャンブリッジ
ISL Online担当

➡ (参考)
送信された通知（メール）内の URL（[パスワードの変更]）の有効期限は 30 分に設定されています。
新たにパスワード変更メールを受信した場合、古いメールにある URL は無効になります。

※どのユーザーにも登録されていない Email を入力すると、次のステップで「変更してログインする」が表示されませんのでご注意ください。

5. パスワードの変更画面が開きます。「変更する」を選択して変更後のパスワードを入力します。「変更してログイン」を選択すると、パスワードの変更が完了します。



パスワードの変更

ユーザー名

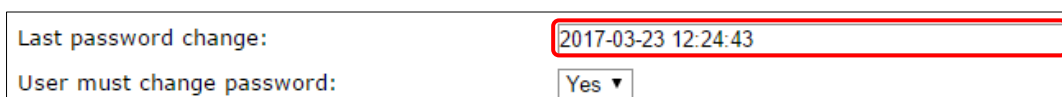
test

変更してログインする

キャンセル

➡ (参考)

ユーザーが最後にパスワードを変更した日時は、[User management]-[Users]-[General]-[Last password change:]で確認できます。



Last password change: 2017-03-23 12:24:43

User must change password: Yes ▼

6.2 パスワードに有効期限を設定する

ISL Online アカウントへのログインに使用するパスワードに有効期限を設定できます。有効期限が経過した場合は、ユーザー側でパスワードの変更を行うか、6.1 の手順に従って管理者側で管理画面からパスワードを変更します。

メニュー

[Configuration](#) > [General](#) > [Password expiration interval \(1w 2d 3h 4m 5s\)](#) :

※特定のユーザー（ドメイン）に対して設定を有効にする場合は以下で設定を行います。

[User management]-[ユーザー名（ドメイン名）]-[General]

1. [Configuration]-[General]を選択します。
2. [Password expiration interval]欄に、パスワードの有効期限を入力します。
例：2w（＝2週間）、3d（＝3日）、4h（＝4時間）、5m（＝5分）、30s（＝30秒）
3. 画面下の[Save]を選択して設定を保存します。

以降、ユーザーのログイン時にパスワードの有効期限が経過している場合はメッセージが表示されます。[新しいパスワード]と[新しいパスワード（確認）]欄にパスワードを入力し、[パスワード変更]を選択することでログインが可能です。



ログイン

ユーザー「\oceanbridge\」のパスワードの有効期限が過ぎています。パスワードを変更してください。

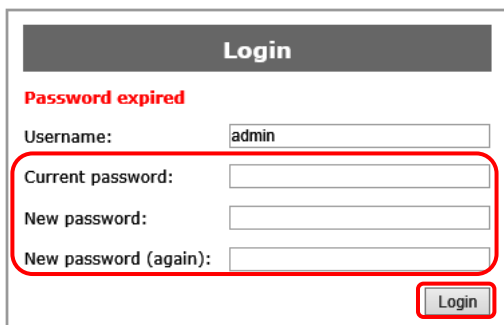
新しいパスワード

新しいパスワード（確認）

パスワード変更

➡（参考）

管理者のログインパスワード（初期設定：asd）にも有効期限を設定できます。有効期限が経過した場合は、[Current password:]にこれまで使用していたパスワードを、[New password:]および[New password (again):]に新しいパスワードを入力し、[Login]を選択します。



Login

Password expired

Username: admin

Current password:

New password:

New password (again):

Login

6.3 パスワードの入力回数を制限する

ISL Online アカウントへのログインに使用するパスワードの入力回数を制限します。

メニュー

Configuration > Security > Max failed login attempts for user(s):
Configuration > Security > Max failed login attempts from IP address:
Configuration > Security > Max failed login attempts period in seconds:

※特定のユーザー（ドメイン）に対して設定を有効にする場合は以下で設定を行います。

[User management]-[ユーザー名（ドメイン名）]-[General]

※ドメイン管理ダッシュボードでも設定が可能です

1. [Configuration]-[Security]を選択します。

以下①②③のチェックボックスのいずれか、もしくは複数のチェックを外して値を入力します。

①[Max failed login attempts for user(s):]（初期値：5 回）

⇒特定のユーザーに対するパスワードの入力（上限）回数

②[Max failed login attempts from IP address:]（初期値：5 回）

⇒特定の IP アドレスからのパスワードの入力（上限）回数

③[Max failed login attempts period in seconds:]（初期値：60 秒）

⇒パスワードの入力（上限）回数の基準となるインターバル

例：初期値（60 秒）の場合、パスワードの入力回数の制限は 60 秒ごとにリセットされます。①の設定が 5 回で 40 秒目に 5 回目のパスワードが誤入力された場合、その後の 20 秒間パスワードの入力が制限されます。制限中は「パスワードを忘れた場合」からパスワードの変更はできません。

2. 画面下の[Save]を選択して設定を保存します。

➡（補足）

- ・パスワードの入力回数の上限を超えた場合は以下のメッセージが表示されます。

認証の失敗が規定回数を超えました。後ほど再度実行してください。

- ・入力回数の制限は管理画面のログインにも適用されます。

6.4 次回ログイン時のパスワード変更を強制にする

ISL Online アカウントへの次回ログイン時にパスワードの変更を求めることができます。
なお ISL Conference Proxy 4.3.9 以降のバージョンでは、初期値でユーザーを作成した場合本設定が有効になっており、初回ログイン時にパスワードを変更させる仕様になっています。

メニュー

User management > General > User must change password:

※ユーザーごとに設定を行う必要があります。

1. [User management]を選択して、ユーザーを選択します。
2. [User must change password:]を[Yes]に設定します。
3. 画面下の[Save]を選択して設定を保存します。

6.5 「パスワードを忘れた場合」を非表示にする

ISL Online アカウントへのログイン時に表示される「パスワードを忘れた場合」のリンクを非表示にできます。

メニュー

Security > Enable forgotten password procedure:

1. [Configuration]-[Security]を選択します。
2. 当該設定のチェックを外して[No(deny override または allow override)]に変更します。
3. 画面下の[Save]を選択して設定を保存します。

※設定は各製品およびオンラインページに適用されます。

例：オンラインページの場合



6.6 2段階認証の設定を強制する

メニュー

Security > Login without configured Two-Factor Authentication:

※ ドメイン管理ダッシュボードでも設定が可能です

1. [Security]を選択します。
2. 当該設定のチェックを外し、[No (deny override または allow override)]に設定します。



Two-factor Authentication

☐ Login without configured Two-Factor Authentication ⓘ:

☒ "Don't ask again on this device" option for 2-Factor authentication ⓘ:

No (allow override) ▼

Yes

※[No (allow override)] : ドメインやユーザーごとの無効/有効の設定変更が可能です。

※[No (deny override)] : ドメインやユーザーごとの無効/有効の設定変更が不可能です。

3. 画面下の[Save]を選択して設定を保存します。

以降、ユーザーが ISL Online アカウントにログインすると右図のような画面が表示され、「2.5 2段階認証を有効にする」の設定が必要になります。

※右図はオンラインページにログインした場合の例です。



2段階認証の設定が必要です。2段階認証の設定後に再度ログインしてください。

2段階認証の方法を選択してください

[セキュリティに戻る](#)

☐ 認証アプリ
セキュリティコードを認証アプリから取得します

☐ 電話
セキュリティコードをSMSで受信します

☐ Email
セキュリティコードをEmailで受信します

☐ セキュリティキー
認証にセキュリティキーを使用します

キャンセル

開始する

6.7 「このデバイスを登録する」を非表示にする

2 段階認証ログイン画面の「このデバイスを登録する」のチェックボックスを非表示にします。

メニュー

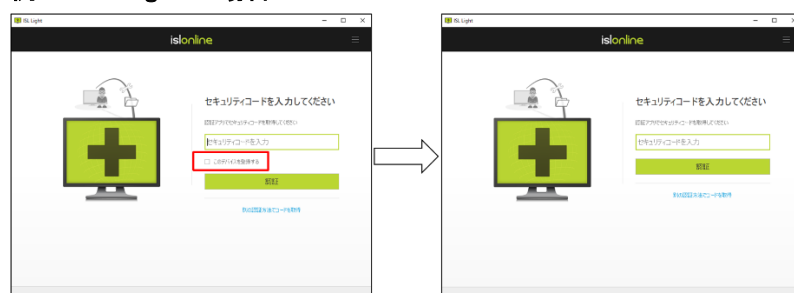
Security > “Don’t ask again on this device” option for 2-Factor authentication:

※ ドメイン管理ダッシュボードでも設定が可能です

1. [Security]を選択します。
2. 当該設定のチェックを外し、[No(deny override または allow override)]に設定します。
3. 画面下の[Save]を選択して設定を保存します。

※設定は各製品およびオンラインページに適用されます。

例：ISL Light の場合



6.8 パスワードに条件を設定する

ユーザーにパスワードを設定・更新させる際の条件（文字数、大文字/小文字の組合せ必須など）を設定できます（既に使用中のパスワードを強制的に制御するものではありません）。

※下記「メニュー1」「メニュー2」の2つの設定方法がございます。両方とも設定した場合、「メニュー1」→「メニュー2」の順にパスワードチェックを行います。

メニュー1

Configuration > Security > Password

※特定のユーザー（ドメイン）に対して設定を有効にする場合は以下で設定を行います。

[User management]-[ユーザー名（ドメイン名）]-[Security]

※ドメイン管理ダッシュボードでも設定が可能です

1. [Configuration]-[Security]を選択します。
2. 「Password」セクション内の設定のチェックを外し、条件（値）を入力します。

Change password:	この設定を無効にすると、ユーザーがパスワードを変更することを禁止できます。6.1「 ■ユーザー側からパスワードを変更する手順 」も無効になります。 ※「6.2 パスワードに有効期限を設定する」「6.4 次回ログイン時のパスワード変更を強制にする」の設定を有効にしている場合、アカウントが利用できなくなる可能性があるため、この設定は無効にしないでください。
Minimum password length:	パスワードの長さの最小値を設定します。
Maximum password length:	パスワードの長さの最大値を設定します。
List of custom special characters:	パスワードに含められる記号を設定します。
Minimum number of custom special characters required in passwords:	パスワードに最低限含めなければならない記号の数を設定します。
Minimum number of uppercase characters required in passwords:	パスワードに最低限含めなければならない大文字の数を設定します。
Minimum number of lowercase characters required in passwords:	パスワードに最低限含めなければならない小文字の数を設定します。
Minimum number of digit characters required in passwords:	パスワードに最低限含めなければならない数字の数を設定します。
Allow password to start or end with whitespace:	パスワードの先頭もしくは最後にスペースを含められるかを設定します。
Allow passwords from password_blacklist.txt:*	ISL Conference Proxy インストールフォルダー内のファイル「password_blacklist.txt」に記載された文字列をパスワードに使用できるかどうかを設定します。

※ISL Conference Proxy 4.4.1947.98 で追加された[Configuration]-[Security]-[Reject passwords from password blacklist.txt:]は、4.4.2044.79 以降では [Allow passwords from password_blacklist.txt]に変更になっております。この設定は、ISL Conference Proxy 4.4.2044.79 以降へアップグレードした際に引き継がれず、必ず初期値になりますのでご注意ください。

3. 画面下の[Save]を選択して設定を保存します。

Configuration > Security > Valid password format (regex):

Configuration > Security > Invalid password error:

※特定のユーザー（ドメイン）に対して設定を有効にする場合は以下で設定を行います。

[User management]-[ユーザー名（ドメイン名）]-[Security]

1. [Configuration]-[Security]を選択します。
2. [Valid password format (regex):]の設定のチェックボックスを外し、正規表現で条件（値）を入力します。

■例 1

9 文字以上のパスワードを求める場合：

. {9, }

■例 2

4～6 文字以内で、最低 1 つ数字を含むパスワードを求める場合：

^(?=.*\d). {4, 6} \$

■例 3

数字と英字（大・小文字どちらでも可）の組合せで 7 文字以上のパスワードを求める場合：

(?=.*[0-9])(?=.*[a-z] | .*[A-Z])[0-9a-zA-Z] {7, }

3. 続けて[Invalid password error:]のチェックボックスを外し、ユーザーが条件に満たないパスワードに変更しようとした場合に表示されるメッセージを入力します。

例：9 文字以上のパスワードを設定してください。

（初期値：Password is not secure or it contains invalid characters.）

4. 画面下の[Save]を選択して設定を保存します。

6.9 ファイルの拡張子の制限を変更する

取り扱い可能ファイルの制限（ブラックリスト）

セキュリティ上の理由から拡張子のブラックリストがあらかじめ設定されており、ISL Online で取り扱い可能なファイルの拡張子が制限されています。ブラックリストの変更やホワイトリストの設定を行うことで、利用可能な拡張子の制限を調整できます（本設定は現在 ISL Group にのみ適用されます）。

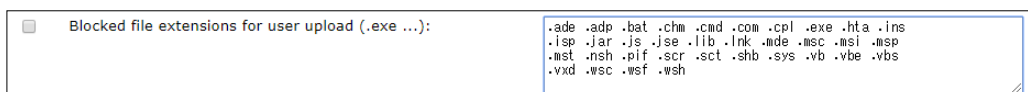
■ブラックリスト（初期設定）

.ade/.adp/.apk/.appx/.appxbundle/.bat/.cab/.chm/.cmd/.com/.cpl/.dll/.dmg/.exe/.hta/.ins/.iso/.isp/.jar/.js/.jse/.lib/.lnk/.mde/.msc/.msi/.msix/.msixbundle/.msp/.mst/.nsh/.pif/.ps1/.scr/.sct/.shb/.swf/.sys/.vb/.vbe/.vbs/.vxd/.wsc/.wsf/.wsh

ブラックリストから拡張子を除外する

Configuration > Security > Blocked file extensions for user upload (.exe ...):

1. [Configuration]-[Security]を選択します。
2. [Blocked file extensions for user upload (.exe ...):]の設定のチェックボックスを外し、設定済みの拡張子を削除または拡張子の追加を行います。



3. 画面下の[Save]を選択して設定を保存します。

ホワイトリストを設定する

Configuration > Security > Allowed file extensions for user upload (.txt ...):

1. [Configuration]-[Security]を選択します。
2. [Allowed file extensions for user upload (.txt ...):]の設定のチェックボックスを外し、取り扱い可能とする拡張子の追加を行います。



3. 画面下の[Save]を選択して設定を保存します。

➡（補足）

- ・ ホワイトリストを設定すると、リストに記載のないファイルは取り扱い不可になるため、特定のファイルのみを取り扱い可能にする場合に有効です。また、ブラックリストにもホワイトリスト同様の拡張子が存在する場合は、ブラックリストの設定が優先されます。

ブラウザ上で閲覧可能なファイルの制限

ISL Conference Proxy 4.4.1947.98 以降のバージョンでは、セキュリティ上の理由からブラウザ上で閲覧可能な共有ファイル（ISL Always / ISL Groop）の拡張子が制限されています。閲覧が制限されたファイルは強制的にダウンロードされます。この設定では、ブラウザ上で閲覧可能な拡張子の制限を調整できます。

■ ブラウザ上で閲覧可能なファイル（初期設定）

image/(jpeg|png|gif|webp)

メニュー

Configuration > Security >

Allow inline download of user uploaded files (MIME type regex ...):

1. [Configuration]-[Security]を選択します。
2. 当該設定のチェックボックスを外し、設定済みの MIME Type を削除または追加します。

☐ Allow inline download of user uploaded files (MIME type regex ...):	image/([ip]).*?
--	-----------------

※ 正規表現を使用した記述が可能です。上記の例では、「.j」「.p」で始まる画像ファイルのみを許可しています。

3. 画面下の[Save]を選択して設定を保存します。

■ ファイル拡張子制限なしの場合



■ ファイル拡張子制限ありの場合



6.10 アクティビティログを記録する

管理者およびユーザーのログイン履歴や操作履歴を CSV ファイルに出力して管理できます。初期設定ではアクティビティログの保存期間は設定されていませんが、保存期間を指定してサーバーに保存するファイル数を制限することも可能です。

メニュー

[Configuration](#) > [Logs](#) > [Record activity log](#)

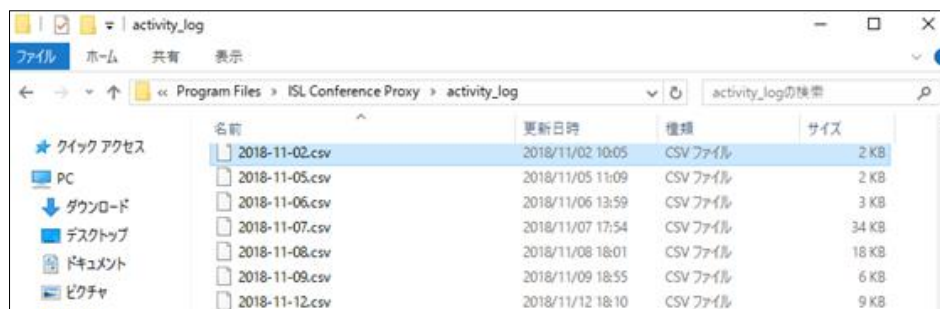
[Configuration](#) > [Logs](#) > [Limit activity log files \(in days\)](#)

1. [Configuration]-[Logs]を選択します。
2. [Record activity log:]の設定のチェックボックスを外し、[Yes]に変更します。
3. アクティビティログの保存期間を指定する場合は、続けて[Limit activity log files (in days):]のチェックボックスを外し、保管するログファイル数を入力します。

☐ Record activity log:	Yes ▼
☐ Limit activity log files (in days):	7

4. 画面下の[Save]を選択して設定を保存します。

以降、管理者およびユーザーのログイン履歴や操作履歴が ISL Conference Proxy のインストールフォルダー内に保存されます。



➡ (補足)

- ・ アクティビティの記録時間には協定世界時 (UTC) が適用されます。
- ・ 製品の操作履歴がない場合、該当する日付のアクティビティログは作成されません。
- ・ カスタマイズ (例: 4.12) に適用した設定値の情報は出力できません。

6.11 セッションコードの入力回数を制限する

ワンタイム接続や WEB 会議へ参加する際のセッションコードの入力試行回数を制限することができます。

入力回数を制限する

Configuration > Security >

- Max failed attempts to join a session from IP address:

1. [Configuration]-[Security]を選択します。
2. [Max failed attempts to join a session from IP address:]の設定のチェックボックスを外し、値を入力します。
3. 画面下の[Save]を選択して設定を保存します。

規定時間内の入力を制限する

Configuration > Security >

- Max failed attempts to join a session period in seconds:

1. [Configuration]-[Security]を選択します。
2. [Max failed attempts to join a session period in seconds:]の設定のチェックボックスを外し、値を入力します。
3. 画面下の[Save]を選択して設定を保存します。

※規定回数（初期値：60 回）、または、規定の期間（初期値：60 秒）を超えてセッションコードの入力を間違えた場合、正しいセッションコードを入力してもしばらく時間が経過しないと接続できません。

▼ ISL Light ワンタイム接続：

The screenshot shows the ISL Light mobile app interface. At the top, there's a header with the ISL Light logo and a session ID. Below that, a section titled 'セッションに参加する' (Join Session) contains a message: '接続試行の回数が上限を超えました。後ほど再度実行してください。' (The number of connection attempts has exceeded the limit. Please try again later). There is a text input field for the session code, which currently contains '28064801'. Below the input field, there is a checkbox labeled '開始時に確認画面を表示しない' (Do not display the confirmation screen at the start). At the bottom, there are two buttons: a green '接続' (Connect) button and a grey button with a hamburger menu icon.

▼ オンラインページからセッションコード入力：

The screenshot shows the islonline web page interface. At the top, there's a header with the islonline logo and links for 'セッション参加' (Join Session), 'ダウンロード' (Download), and 'ログイン' (Login). Below that, a section titled 'セッションに参加する' (Join Session) contains a message: '接続試行の回数が上限を超えました。後ほど再度実行してください。' (The number of connection attempts has exceeded the limit. Please try again later). There is a text input field for the session code, which currently contains '12345678910'. Below the input field, there is a green '接続' (Connect) button.

7 セッション履歴に関する設定

7.1 現在利用中のセッションを確認する

現在使用中のセッションの状況を確認します。

メニュー

Activity monitor > Sessions > Active

- ISL Groop (Web 会議の使用状況)
- ISL Light (ワнтаイム、常駐接続の使用状況)
- ISL Pronto (チャットの使用状況)

※常駐接続 (ISL AlwaysOn) の情報は、製品の特性上「ISL Light」に表示されます。

1. [Activity monitor]-[Sessions]-[Active]を選択します。
2. [ISL Light][ISL Groop]または[ISL Pronto]を選択します。
3. セッションの使用状況が表示されます。Session ID を選択すると詳細が確認できます。

■ ISL Light

Active sessions									
ISL AlwaysOn ISL Groop ISL Light									
ステータス : 「running (使用中)」									
■ Select	Session ID	Active on server	Info From	Session code	Session state	Created on	User	Dura	
☐	s-1_0_25	this server (-1)	db	51735773	running	2017-04-10 14:29:57	\\default\test	00:2	
Drop selected Reconnect									

Select	セッションを選択します。
Session ID	ISL Conference Proxy の内部データベース用の固有 ID を表示します。
Active on server	アクティブなセッションが存在するサーバーの ID を表示します。 (複数のサーバーで GRID を構成している場合を除き、通常は 1 台のみ表示されます)
Session code	セッションコードを表示します。
Session state	現在のセッションの状態を表示します (例 : running=起動中)。
Created on	ISL Light Desk がセッションコードの作成を要求した時間を表示します。
Guest operator	ゲストオペレーターによるセッション参加かどうかを表示します。
User	ISL Light を使用したオペレーターのユーザーアカウントを表示します。

Duration	セッションがアクティブの状態になっていた時間を表示します。
Last transfer	データが最後に送信された時間を表示します。セッションの開始時から計測されます。
Bytes transferred	セッション中に転送されたデータの総バイト数を表示します。
Average B/s	1 秒間に転送されたデータの平均バイト数を表示します。
Reconnects	セッションの再接続が行われた回数を表示します。
Desk、Client	ISL Light ソフトウェアの制御データです。カンマ区切りで表示されます。(OS, バージョン, 言語, IP アドレス, ネットワーク転送タイプ)
Desk、Client OS	ISL Light および Client が使用された端末の OS 情報を表示します。
Desk、Client location	ISL Light および Client が使用された地理的なロケーション (国コード、国、市) を表示します。GeoIP がインストールされている場合にのみ表示されます。

■ ISL Groop

Active sessions

ISL AlwaysOn
ISL Groop
ISL Light

Search

Limit to user (use * and ?, e.g., \domain*):
Search

Sessions

Session ID	Session code	Public	Session name	Session Active	Created By	Running on server
s-1_0_3	067-819-561-637	Yes	予算会議	Activated for 10 users	test - \\default\test [user1@example.com] (192.168.0.80)	this s

Local Session Info

Session Code	Started At	Joined Users	License (users)	Auto Shutdown
067-819-561-637	2017-04-10 15:04:12	2	10	Off

ステータス:「会議名」「Activated (使用中)」

Search	条件を入力して、セッション (Web 会議) を検索します。
Session ID	ISL Conference Proxy の内部データベース用の固有 ID を表示します。
Session code	セッションコードを表示します。
Public	Web 会議の場合は[Yes]、Web セミナーの場合は[No]が表示されます。
Session name	Web 会議/Web セミナーの名前を表示します。
Session Active	現在のセッションの状態を表示します。(例: 最大 10 名まで参加可能な場合: 「Activated for 10 users」)
Created by	会議を作成したオーナーの情報が表示されます。
Running on server	アクティブなセッションが存在するサーバーの ID を表示します。 (複数のサーバーで GRID を構成している場合を除き、通常は 1 台のみ表示されます)
Time Running	セッションがアクティブの状態になっていた時間を表示します。

Users Present	現在参加中のユーザーの人数を表示します。
----------------------	----------------------

■ ISL Pronto

<Chats>

Active sessions										
ISL AlwaysOn ISL Groop ISL Light ISL Pronto										
Chats										
Server	Database ID	Chat transcript	Started	Domain	Requestor	Supporter	Clients in chat	Supporters in chat	Language	Template
-1 (this server)	s-1_0_193	Download	2021-07-12 10:25:26	default	クライアント	オーシャン太郎	クライアント	オーシャン太郎	ja	d:s-999_0_0 c:s-1_0_0
-1 (this server)	s-1_0_194	Download	2021-07-12 10:26:17	default	オーシャン花子	オーシャン太郎		オーシャン太郎	ja	d:s-999_0_0 c:s-1_0_0

Server	クライアントが接続しているサーバーの情報を表示します。
Database ID	チャットデータのデータの識別子を表示します。
Chat transcript	チャットの内容を html 形式でダウンロードします。
Started	チャットの開始日時を表示します。
Domain	チャットの対象ドメインを表示します。
Requestor	チャットをリクエストしたクライアント名を表示します。
Supporter	チャットに対応したオペレーター名を表示します。
Clients in chat	チャット内にクライアントがいる場合はクライアント名を表示します。既にクライアントがチャットを離れている場合は空白を表示します。
Supporters in chat	チャット内にオペレーターがいる場合はオペレーター名を表示します。既にオペレーターがチャットを離れている場合は空白を表示します。
Language	チャットで指定されている言語を表示します。
Template	チャット画面に適用されているテンプレートの識別子が表示されます。

<Clients>

Clients										
Select	Server	Time	Domain	Name	E-mail	Language	Template	Filter	Security	IP
☐	-1 (this server)	2021-07-12 10:24:45	default	クライアント	xxxxxxxx@xxxxxxxx.jp	ja	d:s-999_0_0 c:s-1_0_0	d=s%252d999_0_0&o=#		

Select	セッションを選択します。
Server	クライアントが接続しているサーバーの情報を表示します。
Time	クライアントが接続を開始した日時を表示します。
Domain	クライアントが接続要求をしているドメインを表示します。

Name	クライアントの名前を表示します。
E-mail	クライアントの E-mail アドレスを表示します。
Language	クライアントのチャット画面で指定されている言語を表示します。
Template	クライアントのチャット画面に適用されているテンプレートの識別子が表示されます。
Filter	クライアントからの接続要求時に指定されたフィルタを表示します。
Security	
IP	チャット接続のある端末の送信元 IP アドレスを表示します。
Reverse DNS	IP アドレスから逆引きして取得したドメイン名を表示します。
Location	ISL Pronto が使用された地理的なロケーション（国コード、国、市）を表示します。GeoIP がインストールされている場合にのみ表示されます。

<Supporters>

Supporters

■ Select	Server	User	Name	E-mail	Status	Software	Language	IP	Location
☐	-1 (this server)	\\default\optest	オーシャン太郎		available	4.4.1932.32 (win32)	ja		
☐	-1 (this server)	\\default\optest2	オーシャン花子		available	4.4.1932.38 (win32)	ja		

Select	セッションを選択します。
Server	オペレーターが接続しているサーバーの情報を表示します。
User	オペレーターのログインユーザー名を表示します。
Name	オペレーターの表示用ユーザー名を表示します。
E-mail	オペレーターの E-mail アドレスを表示します。
Status	オペレーターが接続しているサーバーの情報を表示します。
Software	オペレーターのステータスを表示します。
Language	オペレーターが利用中の言語を表示します。
IP	オペレーターが利用している端末の IP アドレスを表示します。
Location	ISL Pronto が使用された地理的なロケーション（国コード、国、市）を表示します。GeoIP がインストールされている場合にのみ表示されます。

➡ (補足)

使用中のセッションは、強制的に終了することができます。

■ ISL Light (ワンタイム、常駐接続の場合)

セッションにチェックを入れ[Drop selected]を選択すると、セッションを強制的に終了します。

The screenshot shows the 'Active sessions' page with tabs for 'ISL AlwaysOn', 'ISL Group', and 'ISL Light'. A table lists active sessions with columns: Select, Session ID, Active on server, Info From, Session code, Session state, and Created. The first session, 's-1_0_25', is selected with a checked checkbox. Below the table, the 'Drop selected' button is highlighted with a red box, along with a 'Reconnect' button.

Select	Session ID	Active on server	Info From	Session code	Session state	Created
☒	s-1_0_25	this server (-1)	db	51735773	running	2017-04-10 15:03:38

■ ISL Group

1. セッションの[Session ID]欄の値を選択します。

The screenshot shows the 'Active sessions' page with tabs for 'ISL AlwaysOn', 'ISL Group', and 'ISL Light'. A search bar is present. Below it, a table lists sessions with columns: Session ID, Session code, Public, Session name, Session Active, Created By, and Running. The first session, 's-1_0_3', is highlighted with a red box. At the bottom, there are pagination controls: 'First | Previous | Next | Per page: 100'.

Session ID	Session code	Public	Session name	Session Active	Created By	Running
s-1_0_3	067-819-561-637	Yes	予算会議	Activated for 10 users	test - \\default\test [user1@example.com] (192.168.0.80)	this s

2. セッションの詳細情報が表示されます。[Shutdown]を選択すると、セッションを強制的に終了します。

The screenshot shows the 'ISL Group Session' detail page for session 's-1_0_3'. It displays various session details such as Owner, Session Name, Public Access, Session Create Time, Session Start Time, Creator, Creator Address, Creator E-Mail, Running on server, Users present, and Activation status. Below this, the 'Session Control' section has a 'Shutdown' button highlighted with a red box, followed by 'or Move to this server (-1)'. At the bottom, the 'User Information' table lists users with columns: User ID, Role, Nickname, Address, Status, and On Server.

Session ID: s-1_0_3
Owner: test [\\default\test]
Session Name: 予算会議
Public Access: Yes
Session Create Time: 2017-04-10 15:03:38
Session Start Time: 2017-04-10 14:33:00
Creator: \\default\test
Creator Address: [redacted]
Creator E-Mail: [redacted]
Running on server: this server (-1)
Users present: 1
Activation status: Activated for 10 users

Session Control
Shutdown or Move to this server (-1)

User ID	Role	Nickname	Address	Status	On Server
215019708393330	Guest	guest	[redacted]	Joined	this server (-1)

■ ISL Pronto

セッションにチェックを入れ[Drop selected]を選択し[Executes]を押すと、セッションを強制的に終了します。[Drop all clients]を選択すると、全てのセッションを強制的に終了します。

Clients						
Select	Server	Time	Domain	Name	E-mail	Language
☒	-1 (this server)	2021-07-12 10:24:45	default	クライアント	xxxxxxx@xxxxxxx.jp	ja

☒ Drop selected clients
☐ Drop all clients

Execute

7.2 セッションの利用履歴を確認する

管理画面上で製品の利用履歴を確認できます。

※常駐接続（ISL AlwaysOn）の情報は、製品の特性上「ISL Light」に表示されます。

メニュー

- Activity monitor > Sessions > History
- ISL Light（ワンタイム、常駐接続の履歴）
 - ISL Groop（Web 会議の履歴）
 - ISL Pronto（チャットの履歴）

1. [Activity monitor]-[Sessions]-[History]を選択します。
2. [ISL Light]、[ISL Groop]または[ISL Pronto]を選択します。
3. 検索条件を入力し、[Search]を選択すると履歴を表示します。

■ ISL Light

Session history

ISL Groop

ISL Light

ISL Pronto

Search

Created after:

2022-10-31 16:06:02

Created before:

2022-10-31 18:06:02

Limit to user (use * and ?, e.g., \\domain*):

Show deleted:

☐

Search

Select

Session ID

External ID

Active on server

Info From

Session code

Created after	[Created after（以降）]～[Created before（以前）]に期間を指定します。初期値では直前の2時間に設定されています。
Created before	
Limit to user	ユーザー情報に基づいて履歴の検索を行います。「*」や「?」などのワイルドカードが利用できます。 例： 「ドメイン abc のすべてのユーザー」：¥¥abc¥* 「名前に joe を含むすべてのユーザー」：¥¥*¥*joe* 「ユーザー名が 4 文字であるすべてのユーザー」：¥¥*¥????
Show deleted:	削除したセッションを対象に検索します。

■ ISL Groop

Session history

ISL Groop ISL Light ISL Pronto

Search

Limit to creator (use * and ?, e.g., \\domain*):
Show deleted: ☐ Search

Sessions

Select	Session ID	Session code	Public	Created
--------	------------	--------------	--------	---------

Search	ユーザー情報に基づいて履歴を参照します。「*」や「?」などのワイルドカードが利用できます。 例： 「ドメイン abc のすべてのユーザー」：¥¥abc¥*
Public	Web 会議は[No]、Web セミナーは[Yes]と表示されます
Show deleted:	削除したセッションを対象に検索します。

■ ISL Pronto

ISL Groop ISL Light ISL Pronto

Search

Started after: 2021-07-12 09:42:05
Started before: 2021-07-12 11:42:05
Limit to domain (use * and ?, e.g., d*):
Limit to requestor (use * and ?, e.g., "john"):
Limit to requestor e-mail (use * and ?, e.g., "@yahoo.com"):
Limit to supporter (use * and ?, e.g., "jill"):
Show deleted: ☐ Search

Select	Database ID	Chat transcript	Started	Domain	Deleted content	Requestor	Requestor e-mail	Supporter	Language	IP
☐	s-1_0_193	Download	2021-07-12 10:25:26	default		クライアント	xxxxxxxx@xxxxxxxx.jp	オーシャン太郎	ja	
☐	s-1_0_194	Download	2021-07-12 10:26:17	default		オーシャン花子		オーシャン太郎	ja	
☐	s-1_0_195	Download	2021-07-12 10:41:35	default		クライアント	xxxxxxxx@xxxxxxxx.jp	オーシャン花子	ja	

First | Previous | Next | Per page: 100

☐ Delete content ☐ Delete ☐ Undelete content ☐ Undelete

Started after	[Started after (以降)]～[Started before (以前)]に期間を指定します。初期値では現在日時の前後 1 時間に設定されています。
Started before	
Limit to domain	ドメイン情報に基づいて履歴の検索を行います。「*」や「?」などのワイルドカードが利用できます。 例： 「ドメイン名に abc を含むすべてのドメイン」：*abc* 「ドメイン名が 4 文字であるすべてのドメイン」：????

Limit to requestor	クライアント名に基づいて履歴の検索を行います。「*」や「?」などのワイルドカードが利用できます。 例： 「名前に joe を含むすべてのクライアント」：*joe* 「ユーザー名が 4 文字であるすべてのクライアント」：????
Limit to requestor e-mail	クライアントの E-mail 情報に基づいて履歴の検索を行います。「*」や「?」などのワイルドカードが利用できます。 例： 「E-mail アドレスのドメインが*@example.com であるすべてのクライアント」：*@example.com
Limit to supporter	オペレーター名に基づいて履歴の検索を行います。「*」や「?」などのワイルドカードが利用できます。 例： 「名前に joe を含むすべてのオペレーター」：*joe*
Show deleted:	削除したセッションを対象に検索します。

7.3 オンラインページの履歴の設定を変更する

オンラインページの履歴を初期設定で利用する場合は、以下の特徴があります。

- ① オンラインページにログイン中のユーザーの履歴のみを表示します。製品を利用した全ユーザーの履歴を表示する場合は、事前に管理画面で必要な設定を有効にする必要があります。
- ② 会話（チャット）の内容は記録されません。会話（チャット）の内容も履歴として記録する場合は、事前に管理画面で必要な設定を有効にする必要があります。



※オンラインページの履歴の詳細は、『ISL Light マニュアル』をご参照ください。

①全ユーザーの履歴を参照できるようにする

Configuration > Security

– View domain sessions:

– View server sessions: (ドメインが複数存在する場合)

※特定のユーザー（ドメイン）に対して設定を有効にする場合は以下で設定を行います。

[User management]-[ユーザー名（ドメイン名）]-[Security]

※ドメイン管理ダッシュボードでも設定が可能です

1. [Configuration]-[Security] を選択します。
2. [View domain sessions:]のチェックを外して[Yes]に変更します。
※複数のドメインを作成している場合は[View server sessions:]の設定も[Yes]に変更します。
3. 画面下の[Save]を選択して設定を保存します。

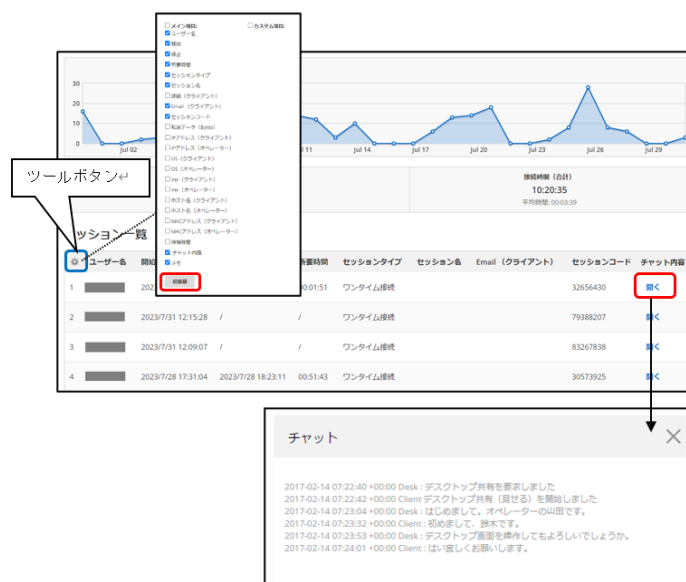
②会話（チャット）内容を表示する

Configuration > ISL Light > Send chat transcripts after the session:

※特定のユーザー（ドメイン）に対して設定を有効にする場合は以下で設定を行います。

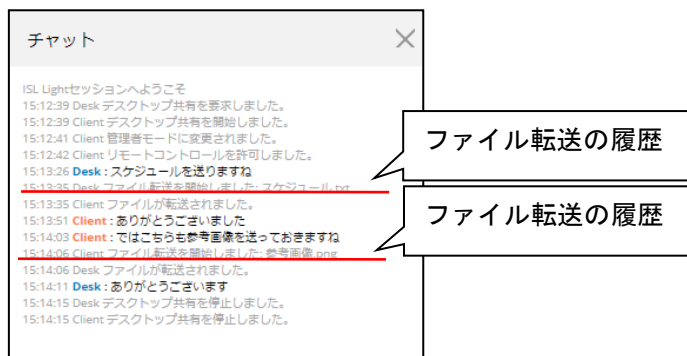
[User management]-[ユーザー名（ドメイン名）]-[ISL Light]

1. [Configuration]-[ISL Light] を選択します。
2. [Send chat transcripts after the session:]のチェックを外して[Yes]に変更します。
3. 画面下の[Save]を選択して設定を保存します。
4. オンラインページのツールボタンで「Chat」を有効にすると、「Chat」欄に黄緑色の吹き出しマークが表示されます。吹き出しマークを選択すると、会話（チャットウィンドウ上で表示された内容）が表示されます。



➡（補足）

ファイル転送の履歴（日時およびファイル名）は会話（チャット内容）から参照できます。



7.4 セッションの利用履歴を管理する

各製品の利用履歴は、手動または自動で削除できます。また、削除した履歴の復元について管理できます。

メニュー

Configuration > Data lifecycle > History settings

利用履歴の削除方法を指定します。

Report maximum row count:	History report に表示される最大行数を指定します。設定値を超える行数の場合「+」付きで表示されます。(初期値:1000)
Allow automatic delete:	利用履歴の自動削除を設定します。(初期値:Yes)
Require successful NTP sync for automatic delete:	自動削除を実行する前に NTP サーバーとの同期を行うか指定します。NTP サーバーとの同期に失敗した場合、自動削除は実行されません。(初期値:Yes)
Delete at once count:	1 回の実行で削除される履歴の数を指定します。一度に削除する履歴の数が多すぎると、サーバーの負荷が大きくなる可能性があります。(初期値:100)
Delete interval in seconds:	削除実行の間隔を指定します。より大きな間隔を指定するとサーバーの負荷が軽減されますが、削除完了までの時間が長くなります。(初期値:10)
Enable tracking:	該当製品の履歴を削除対象に指定します。この設定を[Yes]にして保存すると、History report の一覧に表示されます。(初期値:No)
Max age (1d 2h 3m 4s):	削除対象の範囲を指定します。設定後、削除対象範囲は History report の「Older than」列に表示されます。
Automatic delete:	[Yes] の場合、削除対象の履歴を自動的に削除します。(初期値:No)

利用履歴の削除を有効にする

Configuration > Data lifecycle > History settings

ISL Light: Session history (ワンタイム、常駐接続の履歴)

ISL Groop: Session history (Web 会議の履歴)

ISL Pronto: Chat history (チャットの履歴)

ISL Light: Session history		
☒	Enable tracking:	No Local override
☒	Max age (1d 2h 3m 4s):	Local override
☒	Automatic delete:	No Local override

1. [Configuration]-[Data lifecycle]-[History settings]を選択します。
2. [Enable tracking:]のチェックを外し、[Yes]を選択します。
3. [Max age (1d 2h 3m 4s):]のチェックを外し、任意の期間を入力します。
4. 自動削除にする場合は、[Automatic delete:]のチェックを外し、[Yes]を選択します。
5. [Save]を選択して、設定を保存します。
6. [Restart ISL Conference Proxy] (サーバーの再起動)が表示されます。選択して ISL Conference Proxy を再起動します。※手順 6, 7 は[Enable tracking:]を変更した場合
7. 再起動が正常に終了すると、[Please click here to go back to the session]が表示されます。選択すると管理画面に戻ります。

削除対象の履歴を確認する

History settings に基づく、削除対象の履歴を確認できます。

※事前に History settings で設定する必要があります。

Configuration > Data lifecycle > History report

History data lifecycle report				
Report for 2022-10-20 14:58:53				
Module	Category	Action	Older than	Affects
Administration	Reports	delete entries	2022-10-18 14:58:53	Reports: 0
Core Login	Login history	delete entries	2022-10-20 14:57:53	Login attempts: 100+
ISL Light	Session history	delete entries	2022-10-20 14:57:53	Sessions: 100+

Module:	履歴削除の設定が有効な、製品モジュール名を表示します。
Category:	対象データの種類を表示します。 例) Session history→セッション履歴
Action:	このモジュールのデータが削除されたときに実行されるアクションを表示します。
Older Than:	削除対象の範囲を表示します。 例) 2022-10-20 14:57:53 より古い履歴が対象になります
Affects:	削除されるデータ エントリの数を表示します。

利用履歴を手動で削除する

Configuration > Data lifecycle > History report

※事前に History settings で設定する必要があります。

1. [Configuration]-[Data lifecycle]-[History report]を選択します。
2. [Apply policy]を選択します。

History data lifecycle report				
Report for 2022-10-20 14:58:53				
Module	Category	Action	Older than	Affects
Administration	Reports	delete entries	2022-10-18 14:58:53	Reports: 0
Core Login	Login history	delete entries	2022-10-20 14:57:53	Login attempts: 100+
ISL Light	Session history	delete entries	2022-10-20 14:57:53	Sessions: 100+
Apply policy				

削除した履歴を復元する

利用履歴削除後もサーバーは一定期間データを保持するため、復元が可能です。

1. 復元したい製品のセッション利用履歴のページに移動します。※「7.2 セッションの利用履歴を確認する」を参照ください。
2. [Show deleted]にチェックを入れ、任意の検索期間を指定後、[Search]を選択します。
3. Select 列から復元したい履歴にチェックを入れ、[Undelete]を選択します。

The screenshot shows the 'Session history' interface. At the top, there are tabs for 'ISL Group', 'ISL Light', and 'ISL Pronto'. Below this is a 'Search' section with input fields for 'Created after:', 'Created before:', and 'Limit to user (use * and ?, e.g., \\domain*):', along with a 'Show deleted:' checkbox which is checked. A 'Search' button is to the right. Below the search section is a table with columns: 'Select', 'Deleted at', 'Session ID', 'External ID', 'Info From', and 'Session ID'. The table contains four rows of data, each with a checked checkbox in the 'Select' column. At the bottom of the table, there are 'First', 'Previous', 'Next', and 'Per page: 100' links. Below the table, there are 'Delete' and 'Undelete' buttons, with the 'Undelete' button highlighted by a red box.

Select	Deleted at	Session ID	External ID	Info From	Session ID
☒	2022-10-21 07:49:21	s-1_2_508		db	2308
☒	2022-10-21 07:49:21	s-1_2_509		db	271
☒	2022-10-21 08:31:12	s-1_2_606		db	700943
☒	2022-10-21 08:31:12	s-1_2_607		db	599564

削除データの保持期間は、以下で設定が可能です。

[Data lifecycle > Deleted data settings >](#)

[Keep deleted data available for undelete \(1d 2h 3m 4s\):](#)

(例) データの保持期間を1時間半とする場合: [1h 30m]

7.5 現在利用中のセッションをオンラインページに表示・終了できるようにする

利用中のセッションをオンラインページの[接続中のセッション]に表示し、切断できるようにします。ユーザーが切断を忘れてしまったセッションを他のユーザーが切断できるようになります。

自分のセッションを表示・操作を制御する（初期値：YES）

Configuration > Security > Users Sessions

– View own sessions:

– Control own sessions:

ドメイン内のセッションを表示・操作を制御する（初期値：No）

Configuration > Security > Domain Sessions

– View domain sessions:

– Control domain sessions:

サーバー内の全てのセッションを表示・操作を制御する（初期値：No）

Configuration > Security > Server Sessions

– View server sessions:

– Control server sessions:

※特定のユーザー（ドメイン）に対して設定を有効にする場合は以下で設定を行います。

[User management]-[ユーザー名（ドメイン名）]-[Security]

※自分またはドメイン内のセッションのみ、ドメイン管理ダッシュボードでも設定が可能です。

※操作を許可する場合は必ず「View own(または domain、server) sessions」の設定も有効にする必要があります。

1. [Configuration]-[Security] を選択します。
2. 接続中のセッションをオンラインページの[接続中のセッション]に表示する場合は [View own(または domain、server) sessions]の設定を [Yes]に、表示しない場合は[No]に変更します。
3. [接続中のセッション]からセッションの操作を許可する場合は[Control own(または domain、server) sessions]の設定を[Yes]に、許可しない場合は[No]に変更します。
4. 画面下の[Save]を選択して設定を保存します。

8 その他

8.1 モニタリング

サーバーの情報や転送速度、管理ページへのアクセス内容などをモニタリングできます。

サーバー

Activity monitor > Servers

使用中のサーバーの一覧が表示されます。

(各サーバーは固有の ID を持っており、デフォルトのサーバー ID は-1 で設定されています)

Servers						
Select	Server ID	Address	Connected	Version	Up time	Conne
☐	-1 (this server)	192.168.0.229	-	4.4.1734.39 2017-11-22 win64 db=hhash+dt+swal/r,dbs=pgsql/dt	21:31:08	
☐ Restart selected Clear internal errors Reconnect selected in GRID ☐ Disconnect selected from GRID						

Select	再起動するサーバーや切断するサーバーを選択できます。
Server ID	サーバー毎に割り振られた ID です。
Address	サーバーの IP アドレスです。
Connected	複数のサーバーによる GRID 構成の場合に「Connected」と表示されます。
Version	ご利用中の ISL Conference Proxy のバージョンです。
Up time	サーバーの稼働時間です。(HH:MM:SS の形式で表示されます)
ISL Light	現時点でアクティブな ISL Light のセッション数です (ISL AlwaysOn から起動したセッションも含む)。
ISL Pronto	現時点でアクティブな ISL Pronto のセッション数です (クライアントからのチャットリクエストも含む)。
Service usage	ISL Light や ISL AlwaysOn 等の接続数が表示されます。

※Connected time / Disconnected time / Socket count は使用しません。

転送速度

Activity monitor > Transfer rates

使用中のサーバーの平均転送速度を確認できます。

Server ID	Address	1 minute	5 minutes	15 minutes	1 hour
-1 (this server)		0.0 B/s, 0.0 B/s	0.0 B/s, 0.0 B/s	0.0 B/s, 0.0 B/s	0.0 B/s, 0.0 B/s

転送速度は 2 つの値で表されます。1 つ目の値は送信速度を示し、2 つ目の値は受信速度を示します。平均速度は、過去 1 分間、5 分間、15 分間、1 時間について記録されます。

製品 Web ページのアクセス履歴

Activity monitor > Web hits

製品ページ（管理画面、オンラインページ）に対するアクセス履歴を参照できます。初期設定では Raw（全データ）が選択されています。[Query type] 欄から条件を選択して結果を表示します。

Web hits

Server: -1

Query type: Raw

Clear log

Query

Show records: 20

Result

Finished	Runtime	Request queue	Source s.	Remote s.	Remote h.	Client address	Response	Content length	Compressed
2017-04-10 14:20:10	0 ms	2	-1	-1	internal	192.168.0.80	304	0	
2017-04-10 14:20:10	0 ms	2	-1	-1	internal	192.168.0.80	200	582	gzip
2017-04-10 14:20:10	0 ms	2	-1	-1	internal	192.168.0.80	303	0	
2017-04-10 14:20:10	0 ms	2	-1	-1	internal	192.168.0.80	303	0	
2017-04-10 14:19:25	0 ms	2	-1	-1	internal	watchdog_address	303	0	
2017-04-10 14:18:50	0 ms	1	-1	-1	external	192.168.0.80	200	0	

Raw	全てのデータを表示します。
Top clients	アクセス（リクエスト）数の多い端末の IP アドレスを降順で表示します。
Top paths	アクセス（リクエスト）数の多いページのパスを降順で表示します。
Top referrer domains	アクセス（リクエスト）数の多いドメインを降順で表示します。
Top remote servers	アクセス（リクエスト）数の多いサーバーを降順で表示します。（複数のサーバーで GRID を構成している場合を除き、通常は 1 台のみ表示されます）
Top source servers	使用しません。
Top URLs	アクセス（リクエスト）数の多いページの URL を降順で表示します。

8.2 NTP サーバーの設定を変更する

初期設定では、ISL Conference Proxy はインターネット上の NTP サーバー（pool.ntp.org）と同期して時刻を取得します。

NTP サーバーの使用および接続先の設定は、以下の手順で変更できます。

NTP サーバーとの同期設定を解除する

1. ISL Conference Proxy の管理画面にアクセスし、[Network time]-[Client] を選択します。
2. [Enable NTP client:] のチェックを外して [No] を選択し、右下にある [Save] を選択します。
3. 管理画面左側メニュー上部の [Servers] を選択し、[Select] にチェックを入れ、[Restart selected] を選択して ISL Conference Proxy の再起動を行います。

➡（補足）

※本設定により、ISL Conference Proxy をローカルネットワーク内で使用している場合や NTP が使用するポートが開放されていない場合に管理画面に表示されるエラーを回避できます。NTP サーバーから時刻を取得しない場合は、Windows の時刻を取得します。

※エラーが解消しない場合は、こちらの FAQ も合わせてご確認ください。

https://islsupport.oceanbridge.jp/portal/ja/kb/articles/icp-error#ISL_ConferenceProxy_Cannot_perform_automatic_deleted_data_lifecycle_policy_NTP_sync_failed

使用するサーバーを変更する

1. 当該サーバーもしくは社内のファイアウォールなどで、UDP 接続のポート 123(外向き)の通信を許可します
2. ISL Conference Proxy の管理画面にアクセスし、[Network time]-[Client] を選択します。
3. [NTP servers:] のチェックを外し、[Value] 内に NTP サーバーのアドレスを指定して、右下にある [Save] を選択します
4. 管理画面左側メニュー上部の [Servers] を選択し、[Select] にチェックを入れ、[Restart selected] を選択して ISL Conference Proxy の再起動を行います。

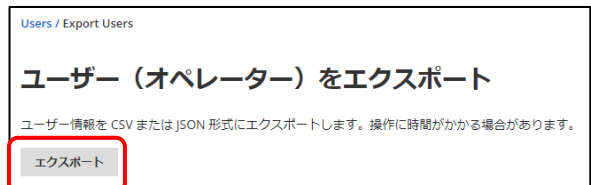
8.3 ユーザー情報を CSV に出力する

ドメイン管理ダッシュボードから、登録されているユーザーの情報を CSV に出力することができます。本機能はドメイン管理者のみご利用可能です。ドメイン管理者権限につきましては、「2.1 ユーザーにドメイン管理者権限を与える」をご参照ください。

メニュー

ドメイン管理 > ユーザー

1. [ドメイン管理]を選択します。
2. [ユーザー]を選択します。
3. [CSV にエクスポート]をクリックします。
4. [エクスポート]をクリックし、登録されているデータを抽出します。



5. ファイルの形式を選択し、[ダウンロード]をクリックします。



項目名/表示名	説明
Name	Username
Email	E-Mail
Fullname	Full name
Password	すべて「*****」
Send files in chat	ISL Pronto 利用時にファイルの送信許可設定がユーザーごとに設定されている場合に表示 ※1
Domain Admin	ドメイン管理者の場合は「1」それ以外は空白
Last password change	パスワードを設定（変更）した最終日時（タイムスタンプ型で表示）
Receive files in chat	ISL Pronto 利用時にファイルの受信許可設定がユーザーごとに設定されている場合に表示※1

※1 : User management > Users > ISL Pronto > File Transfer の設定で、個別設定されている場合のみ表示されます。空白=初期値、-1=No (allow override)、0=No (deny override)、1=Yes

➡ (補足)

4. で抽出した CSV ファイルは、設定に従って定期的に自動でサーバーから削除されます。
(初期値 : 2 日)

ファイルの削除タイミングを変更する

[Configuration](#) > [Data lifecycle](#) > [History settings](#) > [Administration: Reports](#) > [Max age \(1d 2h 3m 4s\)](#):

1. [Configuration]–[Data lifecycle]–[History settings]を選択します。
2. [Administration: Reports]–[Max age (1d 2h 3m 4s)]:のチェックを外し、ファイルを削除する時間を指定します。
3. 画面下の[Save]を選択して設定を保存します。

ご不明点や不具合などがございましたら、下記 ISL Online FAQ ページをご参照ください。

<https://www.islonline.jp/help/index.html>

ISL Online 製品に関するお問い合わせはメールのみになります。

電話でのお問い合わせは受け付けておりませんのでご了承ください。

製品の詳しい情報については、以下の ISL Online ウェブページをご参照ください。

<https://www.islonline.jp/>

ISL Online 開発元

XLAB d.o.o.

URL: <https://www.xlab.si/>



ISL Online 国内総販売代理店

株式会社オーシャンブリッジ

URL: <https://www.oceanbridge.jp/>

